

国際学部で学ぶための
履修ガイド

令和7年度版



宇都宮大学 国際学部

国際学部で学ぶための履修ガイド

目次

国際学部で学ぶための履修ガイド	1
1. 国際学部での履修について	2
1 国際学部国際学科において養成する人材像	2
2 履修に関する基本的な考え方	3
3 専門教育科目の特色	4
2. 留学とインターンシップ	9
1 国際学部から海外に飛びだそう！	9
2 海外体験の費用支援制度：とちぎグローバル人材育成プログラム	13
3 留学しながら4年間で卒業するモデル	14
3. 宇都宮大学で履修できるプログラムについて	16
4. 卒業研究や専門分野を視野に入れた履修方法～教員ごとのページ～	17
1 地域研究系 ①アジア太平洋文化社会研究グループ/Studies of Asia Pacific Culture and Society	19
2 地域研究系 ②欧米文化社会研究グループ/Studies of European and American Culture and Society	29
3 地域研究系 ③日本文化社会研究グループ/Studies of Japanese Culture and Society	39
4 異文化理解・コミュニケーション系 ①比較文化社会研究グループ/Studies of Comparative Culture and Society	47
5 異文化理解・コミュニケーション系 ②言語・コミュニケーション研究グループ /Language and Communication Studies	53
6 国際協力・共生系 ①国際協力研究グループ/International Cooperation Studies	65
7 国際協力・共生系 ②国際共生研究グループ/International Community Studies	77
5. レポート/論文作成の際の注意事項（研究倫理）	92
6. 国際学部・国際学研究科倫理綱領・ガイドライン・問題事例	96
7. 進路を視野に入れた履修	99
1 就職	99
2 進学	101

1. 国際学部での履修について

21世紀が抱える課題はグローバル化の急速な進行により、非常に複雑なものになっています。資本の世界的展開、国際的な労働移動といったグローバル化と多文化化が急速に進む社会状況のなかで、格差の拡大、環境破壊、戦争・紛争、移民・難民問題、民族的・文化的衝突など前例のない課題が全世界的に生じています。また、企業の海外進出が加速する中、グローバルな視野から各地域の実情に対応した戦略を立案・実行する企業活動がより一層必要となっています。こうした変化を受けて、「多文化共生」を実現するために必要な知識、関心・意欲そして行動力を備える21世紀型グローバル人材（グローカル人材）の育成が、社会的に広く要請されるに至っています。「多文化共生」は、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの社会的・文化的違いを認めあい、地域の構成員として共に生きてゆくこと」を意味します。

1 国際学部国際学科において養成する人材像

- (1) 世界の様々な地域の国際的分野で活躍するために、多文化共生に関する専門的な知識・技術に加えてチャレンジ精神や行動力等を兼ね備えた、「グローバルな実践力」を持った人材を育成します。
- (2) 「グローバルな実践力」として身に付けることが必要な能力は、世界の様々な地域で見られる多文化共生に関する専門知識と共に、豊かなコミュニケーション能力や行動力・協調性などです。具体的には、次の①～④の能力としてまとめることができます。
 - ① 世界の様々な国と地域におけるグローバル化と多文化共生に関する現状と課題についての知識を有し、それらの問題構造を理解することができる（知識・理解）。
 - ② 多文化共生社会における諸課題について、その問題構造を踏まえつつ、異なる立場の人々への想像力や共感を土台として、学際的・多角的・専門的に考察し、価値選択や目標設定を行うことができる（思考・判断）。
 - ③ 世界の様々な国と地域で活躍する基盤としての複数言語運用能力とコミュニケーション能力を備える。さらに、自らの設定した課題に関する資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法を用いて比較考察的・批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えた研究成果を文章化し、また口頭で発表して生産的に議論し、課題解決のために実践的に行動することができる（技能・表現）。
 - ④ 異なる文化や社会の在り方を尊重しつつ、グローバル化する地域と世界の問題解決に積極的に関わろうとする21世紀型グローバル人材（グローカル人材）としての主体性と実践的な行動力を備える（関心・意欲）。

(3) 「グローバルな実践力」を持って、グローバル展開する製造業や国際協力などの国際的分野で活躍する人材を育成します。

2 履修に関する基本的な考え方

国際学部では、多文化共生に関わる社会科学と人文科学が一体化した体系的な教育プログラムを構築するとともに、コミュニケーション能力や行動力・協働性等の実践的な能力を修得するために、アクティブ・ラーニングを活用した少人数演習や海外経験学習、国際キャリア教育、外国語教育を重要視します。

具体的には、基盤教育科目（30単位）と専門教育科目（96単位）を履修します。

基盤教育科目では、社会人の素養と人間力の養成、専門教育科目で「グローバルな実践力」を養います。

専門教育科目の大きな特色は、次の3点です（図1参照）。

- (1) 多文化共生の専門知識の体系化
- (2) 「コミュニケーション能力や海外での行動力の養成」を目的にして、少人数・融合型演習、国際キャリア教育や「アクティブ・ラーニング」科目を拡充
- (3) 外国語運用能力の強化

図1 グローバルな実践力を身につける教育システム



3 専門教育科目の特色

(1) 多文化共生の専門知識の体系化

専門科目は、多文化共生に関する人文科学と社会科学の科目を体系的に修得し、その実践力を身に付ける観点からカリキュラムが構成されています。96単位の構成は、基礎科目（34単位）、選択科目（グローバル専門科目：必修12単位、国際キャリア教育科目：必修6単位）、専門演習・実験・実習科目（必修4単位）、卒業研究準備演習（必修2単位）、卒業研究（必修8単位）からなります（表1参照）。上記に加えて、グローバル専門科目等を30単位以上取得します。グローバル専門科目は以下の3つの系（地域研究系、異文化理解・コミュニケーション系、国際協力・共生系）に分類されています。2年時に一つの系を選択し、その系から4科目8単位を履修し、それ以外の二つの系からそれぞれ1科目2単位ずつ計4単位、合計12単位の取得が義務付けられています。

地域研究系	<ul style="list-style-type: none">• アジア太平洋文化研究グループ• 欧米文化社会グループ• 日本文化社会研究グループ
異文化理解・ コミュニケーション系	<ul style="list-style-type: none">• 比較文化社会研究グループ• 言語・コミュニケーション研究グループ
国際協力・共生系	<ul style="list-style-type: none">• 国際協力研究グループ• 国際共生研究グループ

このことによって、多文化共生に関する幅広い知識と理解・分析力の習得が可能になります。その上で、選択した系の科目を集中的に受講することで専門知識が習得できます。各系とグループのグローバル専門科目は、表2の通りです。

表1 4年間のカリキュラム：科目と系

科目区分等		1年次	2年次	3年次	4年次	必要単位数	
基礎科目	多文化共生コア科目	多文化共生概論 国際関係論 異文化間コミュニケーション Global Civil Society				7単位必修	
	グローバル実践力基礎科目		グローバル実践力基礎演習Ⅰ・Ⅱ			3単位必修	
	多文化共生基礎科目	Comparative Study of Culture 言語学 文化人類学 芸術文化論 国際法 国際政治論 国際経済論 国際社会論				8単位必修	左記とは別に30単位以上
専門外国語科目	英語・フランス語・中国語・韓国朝鮮語・スペイン語				16単位必修		
選択科目	グローバル専門科目	地域研究系 異文化理解・コミュニケーション系 国際協力・共生系				12単位 (選択した系から4科目8単位、それ以外の系からそれぞれ1科目2単位) 必修	
	国際キャリア教育科目	国際キャリア実習・海外フィールドワーク演習・他				6単位必修	
専門演習・実験実習科目				専門演習・実験実習科目		4単位必修	
卒業研究 関連科目				卒業研究準備演習	卒業研究Ⅰ・Ⅱ	10単位必修	

表2 グローバル専門科目の系・グループ・科目

系	グループ	科目
地域研究系	アジア太平洋文化社会研究	民族誌学、アジアの歴史と思想、近現代中国論、中国文化論、韓国文化論、中東地域研究
	欧米文化社会研究	フランス文化論、イギリス文化論、イギリス文学史、アメリカ文化論、アメリカ文学史、Introduction to Latin American Studies、Latin American Politics and Society
	日本文化社会研究	日本文化論、日本史概説、日本語論、日本語史、Japan's International Relations、地域社会論、日本史特講、地域福祉論、社会福祉学概論、福祉社会学、地方自治論、スポーツ・余暇政策
	地域研究専門研究（海外体験） I・II	
異文化理解・コミュニケーション系	比較文化社会研究	哲学概論、表象文化論、国際事象の実証分析、Cultures of the English-Speaking World、East/West: A Comparative Perspective、公共政策入門、行政学、社会調査法入門、観光概論、観光地理学、世界の歴史と文化
	言語・コミュニケーション研究	Linguistic Typology and Language Communication、Phonetics and Phonology、Learning a Different World through English、英語学特殊講義 A、英語学特殊講義 B、言語と認知科学、日本語教育と国際協力、対人コミュニケーション論、情報ネットワーク概論
	異文化理解・コミュニケーション専門研究（海外体験） I・II	
国際協力・共生系	国際協力研究	Theory of Global Governance、移民と多文化教育、環境と国際協力、国際協力論、途上国経済発展論、グローバル化と外国にルーツを持つ子どもの教育、Intercultural Education、International Humanitarian Law in Theory and Practice、アフリカ論
	国際共生研究	ジェンダー論、多文化共生教育、人の国際移動、International Protection of Human Rights、国際機構論、地球環境政策論、ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学、Global Political Economy、憲法、Disaster Studies
	国際協力・共生専門研究（海外体験） I・II	

(2) コミュニケーション能力や海外での行動力の強化

国際学部は、グローバル専門科目のうち、英語開講科目を少なくとも 4 単位を履修することによって、英語力とコミュニケーション能力を向上させます。さらに「コミュニケーション

ョン能力や海外での行動力を強化すること」を目的にして少人数・融合型演習や国際キャリア教育拡充のための「アクティブ・ラーニング」科目を開設しています。

<p>「多文化公共圏実践演習」(グローバル/グローバル)A・B・C・D</p>	<p>学内外、国内外の教員、講師が協働するアクティブ・ラーニングで、多文化の諸相を主体的に把握し、よりよい世界を構築する行動力を持つグローバル、グローバル人材の基礎を学びます。</p>
<p>「多文化公共圏研究演習」</p>	<p>国際理解教育とグローバル教育、グローバルな課題に向き合います。</p>
<p>「海外フィールドワーク演習」Ⅰ・Ⅱ</p>	<p>国内外の国際協力の現場体験等を通して国際的分野におけるキャリア形成への意欲とグローバルな実践力の強化を目指します。</p>

海外留学、海外の大学でその国の言語と文化を学ぶ科目としては、以下の科目を強力に推奨します。

- 「外国語臨地演習」(英語他 6 科目)
- 「国際キャリア実習」(海外インターンシップ、海外での短期間職業体験)
- 「海外フィールドワーク演習」Ⅰ・Ⅱ (海外での一次資料収集・関係者へのアンケートやインタビュー・現地視察等)
- グローバル専門科目の各系に設置された「専門研究(海外体験)Ⅰ・Ⅱ」

宇都宮大学が参加する「大学コンソーシアムとちぎ」は、平成 26 年度から「とちぎグローバル人材育成プログラム」(海外留学・海外インターンシップを支援するために返済不要の奨学金等が支給されるプログラムで、基礎コースと上級コースの全 2 コース)を開始しており、その積極的な活用を図ります。詳細については、「留学とインターンシップ」(9 ページ)をご覧ください。

(3) 外国語運用能力の強化

・英語力強化

英語については、基盤教育の英語教育プログラム「イープー (English Program of Utsunomiya University = EPUU)」との連携を図りながら、英語を用いた意思伝達、相互理解、並びに共同作業を行う汎用的能力向上を目的として、「Advanced Integrated English A、B」を新規開講し、英語の総合的スキルを上級まで高めます。また、TOEIC、TOEFL、IELTS などの外部試験への対応強化を図り、特に、新たに実施する「外国語能力強化プログラム」の受講学生は、TOEIC において 800 点に到達することを目標とします。

・外国語能力強化プログラム

外国語能力強化プログラムは、1・2年次に行われる基盤教育での8単位以上の英語学修に基づき、専門教育において学術面に焦点を当てて英語能力を強化するものです。専門教育における20単位以上、基盤教育と合計して4年間で28単位以上を確保し英語学修において汎用的技能を身に付けることに加えて、専門的な内容を英語で学修する能力を養うことも目標とします。具体的には、学術的な内容について、英語による読解、文章作成、ディスカッション、プレゼンテーションの各技能の向上を目指します。英語で情報を収集、分析、発信する力を効果的に育むことを意識してください。

・初修外国語の重視・「英語+1（プラスワン）」

国際学部専門教育課程における外国語教育の特徴は「英語+1（プラスワン）」、すなわち英語に加え、さらにもう一つの言語を必ず履修し、実用的なレベルにまで能力を向上させるという点にあります。国際学部では、これらの外国語を初修外国語と呼び、フランス語、中国語、韓国朝鮮語、スペイン語がそれに当たります。すべての学生は、原則としてこれら4言語から1言語を選択し、基盤教育において6科目6単位を修得した上で、専門教育において同じ言語を4単位以上履修する必要があります。さらに初修外国語における外国語教育強化プログラムを選択した学生は、基盤教育を履修した後、専門教育において14単位以上、基盤教育と合計して、4年間で20単位以上を取得し、さらに海外への留学やインターンシップ等を通じ、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4技能を実用的なレベルにまで向上させることを目指します。各言語の到達目標は、言語ごとに実施されている検定試験を活用した形で示します。

この4言語のほか、ドイツ語、ロシア語、ポルトガル語の授業を準備し、自らのキャリア形成に沿って、さらに言語を学びたいと考えている学生に機会を提供するカリキュラムとなっています。

2. 留学とインターンシップ

1 国際学部から海外に飛びだそう！

「国際学部の卒業生なら、当然海外での経験を積んでいるでしょう」と社会から期待される時代になりました。実際に、国際学部からは毎年多くの学生が、海外での留学やインターンシップを経験しています。

時間を確保しやすい学生時代に海外に出かけ、さまざまな経験と学びの機会を得ることを、ぜひおすすめします。経済的に余裕がない場合にも、渡航費などの関連経費を支援する制度があります。1年生の時期から、計画をたてておきましょう。

海外経験①：留学

海外の大学や語学学校で学ぶ留学には、次のような種類があります。

<p>「外国語臨地演習」 (国際学部 4 単位)</p>	<p>海外での短期間 (2~4 週間程度) の語学研修です。国際学部で学ぶことのできる、複数の言語で実施されています。</p> <p>英語と中国語は長期休暇期間中に実施されますが、その他の言語は交換留学期間中に、留学先の語学学校等を活用して実施します。詳細については、各プログラムの説明会で情報を得るようにしてください。</p>
<p>交換留学 (1 学期あるいは 1 年間(2 学期間))</p>	<p>国際学部からは世界中にある約 50 の大学に、交換留学制度を利用して留学することができます。この制度を利用すれば、原則として宇都宮大学に支払う学費以外の授業料を、留学先の大学に支払う必要はありません(一部異なる制度を使っている大学がありますので、留学生・国際交流室で確認してください)。</p> <p>留学先の大学で履修した授業の一部は、単位認定が可能です。</p>

<交換留学が可能な大学のリスト>

【大学間交流協定】41校

- <中華人民共和国>電子科技大学、内蒙古農業大学、浙江師範大学、浙江工業大学、寧波大学、浙江大学*3、復旦大学*2、香港大学
- <大韓民国>祥明大学校、全北大学校、蓮庵大学、慶北大学校
- <台湾>国立台湾師範大学、国立政治大学、国立中興大学
- <モンゴル国>モンゴル人文大学、モンゴル生命科技大学
- <タイ王国>カセサート大学、アジア工科大学*4
- <マレーシア>サラワク大学
- <ベトナム社会主義共和国>ダナン科学技術大学
- <カンボジア王国>王立プノンペン大学
- <インドネシア共和国>ボゴール農科大学、ガジャマダ大学、パジャジャラン大学
- <バングラデシュ人民共和国>ダッカ大学
- <スリランカ民主社会主義共和国>ペラデニヤ大学
- <アイルランド共和国>アイルランド国立大学ダブリン校
- <フィンランド共和国>東フィンランド大学*4
- <フランス共和国>オルレアン大学
- <チェコ共和国>パラツキー大学
- <ドイツ連邦共和国>エアランゲン・ニュールンベルク フリートリッヒ・アレクサンダー大学
- <アメリカ合衆国>トライン大学、ヴィンセンス大学、ノースダコタ大学*2
- <カナダ>ノーザン・ブリティッシュ・コロンビア大学
- <ペルー共和国>ポンティフィシアカトリック大学
- <ガーナ共和国>ガーナ大学
- <エチオピア連邦民主共和国>アディスアベバ大学
- <タンザニア連合共和国>ネルソンマンデラ アフリカ科学技術大学院大学*4、ダルエスサラーム大学*4

【学部間交流協定】14校

- <中華人民共和国>チチハル大学、華南農業大学
- <大韓民国>釜慶大学校
- <台湾>国立暨南国際大学、国立台北大学
- <タイ王国>タマサート大学
- <ベトナム社会主義共和国>ハノイ大学
- <イギリス(連合王国)>セントラル・ランカシャー大学*3
- <ドイツ連邦共和国>トリア大学

<ロシア連邦>イルクーツク国立大学
 <アメリカ合衆国>パデュー大学* 1
 <メキシコ合衆国>コリマ大学* 2
 <キューバ共和国>ハバナ大学* 1
 <シリア・アラブ共和国>ダマスカス大学* 2

- * 1 学術交流協定のための締結校のため、学生の派遣は行っていません。
- * 2 学生の派遣は、現在行っていません。
- * 3 学生交流のみ行っています。
- * 4 学生交流は大学院生のみ行っています。

<交換留学までの流れ>

参考 URL <https://intl.utsunomiya-u.ac.jp/page03-2/>

時期	準備する内容
1 年次生	行きたい地域や学びたい言語を選ぶ 卒業後のキャリア形成もふまえて検討する いつから、どのくらいの期間留学するかを考える 語学力の向上を目指す (TOEFL・IELTS・語学検定試験の受験) 海外留学説明会・留学体験報告会 (6 月頃)
1 年次生又は 2 年次生	学内選考への応募 (9~10 月頃) ※2 年次生の時期の留学：1 年次生で応募 3 年次生の時期の留学：2 年次生で応募 学内選考と内定 内定通知後の協定校への応募 協定校から正式受入通知
2 年次生又は 3 年次生	協定校とのその他の手続き パスポートとビザの取得 予防接種等の手続き 卒業研究指導教員との相談 渡航
3 年次生又は 4 年次生	帰国 単位互換を希望する授業についての申請 語学力の向上の成果を記録する (TOEFL・IELTS・語学検定試験の受験)

海外経験②：インターンシップ

海外にある企業や市民団体等で職場経験を積むことを、インターンシップといいます。国際学部では、以下のインターンシップのプログラムを単位認定しているほか、渡航費の支援制度も用意しています。

「国際キャリア実習」 (専門科目・国際キャリア教育科目・2単位)	グローバルな課題を扱う職場で将来活躍することを目指し、海外の企業、NGOなどでインターンを経験して、国際的なキャリアの形成につなげます。長期休暇などを利用した、80時間のインターンシップです。国際学部と同窓会による、渡航費支援制度が利用可能です。 その他、個人で応募した学外のインターンシップの場合にも、単位認定ができる可能性がありますので、この授業の担当教員に相談してください。
-------------------------------------	---

海外経験③：海外フィールドワーク演習Ⅱ

海外フィールドワーク演習Ⅱ (専門科目・国際キャリア教育科目・2単位)	国際協力分野でのキャリア形成を目指して、海外の国際協力機関での研修を行う授業です。農学部の学生と合同で学ぶことができます。「海外フィールドワーク演習Ⅰ」を履修していることが、本科目の履修の要件となります。
--	--

海外経験④：ワーキングホリデー、スタディツアーへの参加や私費留学など

「グローバルAL演習Ⅰ・Ⅱ」(海外体験) (専門科目・国際キャリア教育科目・2単位)	海外でのワーキングホリデーやスタディツアーへの参加や、私費で留学をした場合にも「グローバルAL演習Ⅱ」(海外体験)(専門科目・国際キャリア教育科目・2単位)として、単位認定が可能な場合があります。詳細は、修学支援課にて確認してください。
---	--

海外経験⑤：留学中に海外の大学で実施した学習・研究・実践的活動など

グローバル専門科目の各系に設置された「専門研究(海外体験)Ⅰ・Ⅱ」 (各1単位)	留学中に海外の大学で実施した学習・研究・実践的活動を「専門研究(海外体験)Ⅰ・Ⅱ」(グローバル専門科目、各1単位)として、単位認定が可能な場合があります。詳細は、修学支援課にて確認してください。
---	---

※ 2年次に開講される、グローバル実践力基礎演習Ⅰでは、留学やキャリアについての説明もありますので、活用してください。

※ さまざまな募集、説明会、報告会の開催にあたっては、アナウンスが掲示されるので、見落とさないように注意してください。

2 海外体験の費用支援制度：とちぎグローバル人材育成プログラム

海外への留学とインターンシップの費用を支援する「とちぎグローバル人材育成プログラム」が、大学コンソーシアムとちぎによって用意されています。以下の支援金は返済の義務はありません。

<p>基礎コース</p>	<p>渡航費、保険料、査証（ビザ）取得料、荷物送付料を支援します。 支援金額：アジア地域は 10 万円まで アジア地域以外は 20 万円まで 支援人数：25 人程度 申請要件：原則として以下の要件をすべて満たす者 ①日本国籍を有する、または永住が許可されている者（正規生） 海外インターンシップについては、将来的に栃木県内の企業等への就職を希望している外国人留学生も対象とします。 ②「とちぎグローバル人材育成プログラム」共通科目の単位を 5 単位以上（過去年度含む）修得している者（又は在学中に修得が見込める者） なお、共通科目 5 単位以上のうち、大学コンソーシアムとちぎ必修（選択必修）科目については、必ず留学を申請する年度中に 1 単位以上を修得すること。 ③当該留学等について、他の奨学金を受給していない者。ただし、支援対象経費が重複していないケースは認める場合もあります。 対象期間：海外留学はおおむね 3 週間から（3 週間未満でも申請可） 海外インターンシップは 2 週間から</p>
<p>上級コース</p>	<p>奨学金、渡航費等を支援します。 支援金額：渡航費等 アジア地域は 10 万円まで アジア地域以外は 20 万円まで 奨学金 留学先を問わず月 6 万円（支給期間の上限：5 か月まで） 支援人数：5 人程度 申請要件：以下の要件以外にも要件があります。下記参考 URL で要確認 ①「とちぎグローバル人材育成プログラム」共通科目の単位を 5 単位以上（過去年度含む）修得している者（又は在籍大学等在学中に修得可能な者） ②文部科学省「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～地域人材コース」において過去に派遣留学生として採用されていない学生 対象期間：海外留学、海外での実践活動（28 日以上）及び地域インターンシップ（10 日以上）</p>

※参考 URL <http://www.consortium-tochigi.jp/global.html>

※年度によって変更の可能性がありますので、随時確認してください。

3 留学しながら4年間で卒業するモデル

留学中は卒業研究準備演習や卒業研究Ⅰ・Ⅱ等の一部の科目を除き、宇都宮大学国際学部を履修できません。このため、卒業に必要な単位を留学しながら4年間で揃えるには工夫が必要です。第一に、国際学部は交換留学中に海外の大学で取得した単位や、私費留学・短期留学・ワーキングホリデー等の活動に対して単位を認める仕組みを多く持っています。これらを利用して、海外での経験を積極的に単位として積み上げてくださいます。第二に、留学期間中に取得できない単位を、留学の前後に分散して取得する方法があります。この方法については、留学する時期や期間で様々なパターンがありますが、ここでは代表的な3つのパターンをあげます。

◎パターン1 2年次後期から3年前期に留学する

1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期	
				留学		卒業研究Ⅰ・Ⅱ		
		専門演習・実験実習			卒業研究準備演習			
		グローバル実践力基礎演習Ⅰ			専門演習・実験実習			
		専門外国語			グローバル実践力基礎演習Ⅱ			
	初修外国語(基盤)				専門外国語			
	グローバル専門科目				初修外国語科目(基盤)			
	国際キャリア教育科目				グローバル専門科目			
	多文化共生基礎科目				国際キャリア教育科目			
	多文化共生コア科目							
	基礎教育科目				基礎教育科目			

1年次から留学の準備を進めます。標準的に2年次から3年次に履修する科目を、留学の前後の学年で履修します。

◎パターン2 3年次後期から4年次前期に留学する

1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
					卒業研究準備演習	卒業研究 I・II	
		グローバル実践力基礎演習 I	グローバル実践力基礎演習 II	専門演習・実験実習	留学		
		専門外国語					専門外国語
		初修外国語 (基盤)					
		グローバル専門科目					グローバル専門科目
		国際キャリア教育科目					
		多文化共生基礎科目					
		多文化共生コア科目					
		基盤教育科目					

卒業研究準備演習や卒業研究 I を遠隔履修します。(指導教員にご相談ください。)

◎パターン3 短期留学・海外体験を活用

1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
					卒業研究準備演習	卒業研究 I・II	
			短期留学 (語学留学) や海外体験				
				専門演習・実験実習			
		グローバル実践力基礎演習 I	グローバル実践力基礎演習 II				
		専門外国語					
		初修外国語 (基盤)					
		グローバル専門科目					
		国際キャリア教育科目					
		多文化共生基礎科目					
		多文化共生コア科目					
		基盤教育科目					

休暇期間を利用して短期留学・海外体験を実施します。

3. 宇都宮大学で履修できるプログラムについて

1 Learning+1「グローバル人材育成プログラム」

宇都宮大学独自に用意しているプログラムで、プログラムの科目表から30単位以上を履修し、TOEICスコアが650点以上になれば、修了証が発行されます。交換留学の選考に際しては、本プログラムの履修者が優先されますので、留学希望者は登録を強く勧めます。詳細は『履修案内』にある「“Learning+1”の履修について」をご覧ください。

2 「文理融合型数理・データサイエンス教育プログラム」

本学では、Society 5.0 が実現された未来社会において、文理の枠組みにとらわれることなく地域創生に中心的に携わることのできる教養と専門性を持った人材の育成を進めており、数理・データサイエンス・AI教育においてもこの育成方針に従って、「文理融合の教養」と「専門性」を兼ね備えた体系的教育を目指し、「文理融合型数理・データサイエンス教育プログラム」を開設しています。また、基礎コースと応用コース（ブロンズランク、シルバーランク、ゴールドランク）に分け、目的に沿った能力の育成を目指します。本プログラムについては、個別の申込みは不要です。修了要件を満たすと、3年次10月から証明書自動発行機で学修証明書を発行することができます。詳細は、『履修案内』にある「文理融合型数理・データサイエンス教育プログラム」をご覧ください。

4. 卒業研究や専門分野を視野に入れた履修方法 ～教員ごとのページ～

1. 地域研究系

- ① アジア太平洋文化社会研究グループ/Studies of Asia Pacific Culture and Society
- ② 欧米文化社会研究グループ/Studies of European and American Culture and Society
- ③ 日本文化社会研究グループ/Studies of Japanese Culture and Society

2. 異文化理解・コミュニケーション系

- ① 比較文化社会研究グループ/Studies of Comparative Culture and Society
- ② 言語・コミュニケーション研究グループ/Language and Communication Studies

3. 国際協力・共生系

- ① 国際協力研究グループ/International Cooperation Studies
- ② 国際共生研究グループ/International Community Studies

1 地域研究系 ①アジア太平洋文化社会研究グループ/Studies of Asia Pacific Culture and Society

○アジア太平洋文化研究 A

(民族誌学演習)

Studies of Asia Pacific Culture and Society A

(Seminar in Ethnographic Studies)

○アジア太平洋文化社会研究 B

(韓国文化論演習)

Studies of Asia Pacific Culture and Society B

(Seminar in Korean Culture)

○アジア太平洋文化社会研究 C

(中国文化論演習)

Studies of Asia Pacific Culture and Society C

(Seminar in Chinese Cultures)

○アジア太平洋文化社会研究 E

(中東地域研究演習)

Studies of Asia Pacific Culture and Society E

(Seminar in Area Studies of the Middle East)



アジア太平洋文化社会研究 A (民族誌学演習)

Studies of Asia Pacific Culture and Society A

(Seminar in Ethnography)

リーペレス ファビオ LEE PEREZ Fabio

キーワード： 文化人類学・人の移動・ストレンジャー論・友人関係・ライフストーリー・フィールドワーク

学問的特徴： 文化人類学は、人の生き方を文化の側面から見つめ、人間理解を深める学問です。調査対象とする人々が暮らす異郷の地に直接赴いて、長期間住み込んで、現地の人々とともに暮らしながら、その日常生活を観て、聞いて、触れて、その記録をフィールドノートに書き、それをデータにして、ひとつの民族誌を記述します。文化人類学の醍醐味は、異文化を鏡にして、他者を知り、それを通して自己を知ることです。

専門分野： 私は、幼い頃から連続的な国際移動を繰り返し育った人々が移住先で出会った人々とどのような関係を築いているのか、その関係にどのような意味付けをしているのかを移動と友人関係の視点から研究しています。フィールドワークとライフストーリーの聞き取り調査をしています。

指導方針： 本セミナーでは、フィールドワークの手法を用いて、異文化に生きる人々の生き方の理解を試みて、その成果を一冊の民族誌に書き上げることが目的です。そのためには、まず文化人類学の基礎的知識を習得します。3年次には、親族関係、ジェンダー、宗教、食、人の移動、観光などの主要テーマに関する多くの民族誌を購読し、自分の関心分野を模索するとともに、研究に参照しうる理論についても知見を広げます。そして自分の関心に応じて研究トピックとテーマを決めて、実現可能な研究計画を立てます。“

主な執筆論文・文献：

- 2022「ハーフと日本人:寛容する人と寛容される人」高山陽子編『フォビアがいっぱい—多文化共生社会を生きるために』春風社。
- 2022『『移動する子ども』のライフストーリーとオートエスノグラフィ』川上郁雄・三宅和子・岩崎典子編『移動とことば2』くろしお出版。
- 2020『ストレンジャーの人類学—移動の中に生きる人々のライフストーリー』明石書店。
- 2015「“Culture-Trotting” as a Way of Life: An Anthropology of Cosmopolitans」『東北人類学論壇』14:1-19。

この分野を知るための基本的な文献紹介：

- 松村圭一郎・中村理・石井美保編 2019 『文化人類学の思考法』世界思想社。
- 宮岡真央子・渋谷努・中村八重・兼城糸絵編 2021 『日本で学ぶ文化人類学』昭和堂。

卒業論文題目例:

「外国人女性にとってのサードプレイスに関する人類学的研究—宇都宮市のA料理教室を事例に」(2024年度)

「求める美とそこに生きる女性—心身を傷つけない美容行為としてのヨガ」(2024年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目	基礎科目	多文化共生基礎 A(Comparative Study of Culture)	多文化共生基礎 C(文化人類学)、 H(国際社会論)		
	専門外国語科目	〈関心に応じて外国語を選択してください〉			
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会		民族誌学 中東地域研究 韓国文化論		
	欧米文化社会	〈関心に沿って履修してください〉			
	日本文化社会		地域社会論		
	比較文化社会		社会調査法入門、表象文化論		
	言語・コミュニケーション	〈関心に沿って履修してください〉			
	国際協力	グローバル化と外国人児童生徒教育	移民と多文化教育		
	国際共生	ジェンダー論	人の国際移動		
その他	国際キャリア教育	International Career Seminar	交換留学 外国語臨地演習		
卒業研究関連			民族誌学演習	卒業研究Ⅰ・Ⅱ(リーベレス)	
基盤教育科目	〈関心に沿って履修してください〉				



アジア太平洋文化社会研究 B (韓国文化論演習)

Studies of Asia Pacific Culture and Society B
(Seminar in Korean Culture)

丁貴連 JEONG Gwiryun

キーワード：比較文化、韓国文化、ジェンダー

学問的特徴：比較の視点から韓国の文化と社会を考察します。韓国を知る上で基本となる言語と共に、日本や中国、台湾といったアジア太平洋文化社会に関する歴史や文学、哲学、思想、ジェンダーなどを幅広く履修してください。

専門分野：比較文学比較文化、日本文学・韓国文学、ジェンダー研究。特に、欧米文学の影響を強く受けた日本の近代文学が韓国や中国、台湾など東アジア地域の近代文学の成立に深くかかわっていた受容関係の解明を行なっています。その関連でジェンダー研究にも力を入れています。

指導方針：3年次の演習においては、韓国社会が長年育んできた美意識や自然観、歴史観、死生観、思想観、他者観などへの理解を深めると同時に、韓国文化の特質を日本や中国、欧米など異文化との比較を通して理解する力を育成します。

主な執筆論文・文献：

論文：「時代を映し出す韓国近現代詩—抵抗から風刺、そして共感—へ」（『宇都宮大学国際学部研究論集』第58号、2024年9月）「チョ・ナムジュ『82年生まれ、キム・ジヨン』（2016）から読み解く日本のジェンダー問題—躍進する韓国フェミニズムを手掛かりに」（『宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター年報』第15巻、2023年3月）

報告書：「有島武郎の足跡を訪ねて—思想的転換点となった1900年代初頭のハーバード大学とその時代」（宇都宮大学ダイバーシティ研究環境推進本部女性リーダー育成オフィス『女性研究者海外派遣報告書 No. 2』2021年3月）

共著：「なぜ日本は世界のジェンダー平等の流れから取り残されてしまったのか—東京医科大学「女性差別」入試から考える日本の課題」（『探究の国際学—複合危機から学際的な研究を考える』）ナカニシヤ出版、2024）
「封建社会に挑んだ女性たち—江戸時代の女流日記から読み解く内房歌辞の世界」（『内房歌辞の記録遺産的価値—文学・歴史・書体美学』韓国国学振興院、韓国語、2019年7月）

著書：『媒介者としての国木田独歩—ヨーロッパから日本、そして朝鮮へ』（翰林書房、2014年2月）

この分野を知るために：基本的な文献紹介：

李在銑著／丁貴連・筒井真樹子共訳『韓国文学はどこから来たのか』（白帝社、2005年）

小倉紀蔵『韓国は一個の哲学だ』（講談社現代新書、1998年）

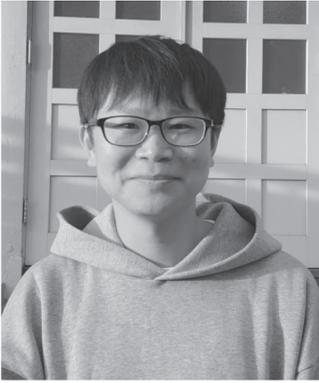
尹藤亜人・大村益夫・梶村秀樹・武田幸男監修『朝鮮を知る事典』（平凡社、1986年/1994年）

卒業論文題目例:

- ・植民地時代をめぐる日韓歴史教科書の比較研究—3・1 独立運動、関東大震災、皇民化政策を手掛かりとして
- ・ファン文化が変えるK-POPアイドルのジェンダー規範—歌詞とミュージックビデオを手掛かりに
- ・SNSが牽引する日本のルッキズム—美容整形と外見至上主義の間で揺れる若者たち
- ・K-POPが導く多文化共生—共感、SNS戦略、ファン文化を手掛かりに
- ・夫婦別姓が炙り出す日本の結婚問題—名字か婚姻か、選択を強いられる婚姻制度からの脱却を目指して
- ・社会の不条理に声をあげる韓国の女性たち—チョ・ナムジュ『彼女の名前は』(2018)を手掛かりに
- ・化粧する男たち—男らしさから女性化、そしてルッキズムへ
など (以上 2024 年度卒論)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目/学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目 基礎科目		多文化共生基礎 A (Comparative Study of Culture)	多文化共生基礎 C (文化人類学)		
専門外国語科目			韓国朝鮮語文章表現(丁) 韓国朝鮮語会話 韓国朝鮮語講読 A 韓国朝鮮語講読 B (丁)	韓国朝鮮語講読 C 韓国朝鮮語講読 D(丁)	
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会		韓国文化論 (丁) 中国文化論	アジアの歴史と思想	
	欧米文化社会		ヨーロッパ思想文化論		
	日本文化社会		日本史概説 A	日本史概説 B	
	比較文化社会		East/West: A Comparative Perspective		
	言語・コミュニケーション		言語比較論		
	国際協力 国際共生	ジェンダー論 (丁)			
その他		国際キャリア教育	International Career Seminar	交換留学 外国語臨地演習(朝鮮語)	国際キャリア実習
卒業研究関連				アジア太平洋文化社会 (韓国文化論演習) (丁) 卒業論文準備演習(丁)	卒業研究 I・II (丁)
基盤教育科目		韓国文学 (丁) 比較文学 (丁) 韓国朝鮮語専門基礎 A・B 初修外国への誘い	韓国朝鮮語応用 I II		



アジア太平洋文化社会研究 C（中国文化論演習）

Studies of Asia Pacific Culture and Society C (Seminar in Chinese Cultures)

梁 鎮輝 RYO Chinki

キーワード：東アジア・中国・中華・香港・台湾・歴史・思想・文学・伝統・近代

学問的特徴：歴史や思想、宗教、言語、文学など人文諸学の観点から、中国と日本の文化やその背景となっている社会構造を考えます。アジア太平洋文化社会研究グループのほか、日本を含めた他地域の歴史や思想などに関する人文系科目を幅広く履修してください。

専門分野：近代における中国と日本の思想や文化を研究しています。とりわけ諸分野における伝統と近代をめぐる日中の知識人たちの議論に注目し、東アジア思想交流史の視角から、その接触、交渉、変容過程について考察を進めています。

指導方針：日本にとって近くて遠い中国ないし東アジアについて、単に表面的な事態に視線を注ぐだけでなく、その精神的基盤を歴史的に掘り下げて解明していく必要があります。多くの学問分野を横断し、知的探求の楽しさを味わって欲しいと思います。第三者からの伝聞による中国理解を脱するため、ぜひ臨地演習や交換留学などを活用して、自分の眼で「中国」に触れてください。ただ、現地調査は、正確な文献読解と史料批判に基づいた上で獲得された知識の基礎に立ってこそ、意義深いものとなるので、1～2年の間に語学力を高め、歴史・地理、哲学・思想、政治・社会など、興味と符合する科目を履修し、異文化理解の基礎知識や方法論を獲得しておいてください。

主な執筆論文・文献：

「釣人とその時代：戦時中の露伴から」『世界文学』（128）2018年

「露伴の『墨子』とその政体論：梁啓超との比較から」『比較文化研究』（134）2019年

「幸田露伴の『道教』と近代中国：『道藏』出版、『仙書参同契』をめぐって」『社会文化史学』（64）2021年

この分野を知るための基本的な文献紹介：

上田信（1995）『伝統中国—〈盆地〉〈宗族〉にみる明清時代—』講談社

若林正丈（2001）『台湾—変容し躊躇するアイデンティティー—』筑摩書房（ちくま新書 318）

家近亮子ほか編（2005）『5分野から読み解く 現代中国』晃洋書房

坂本ひろ子（2016）『中国近代の思想文化史』岩波新書

武田雅哉ほか編著（2016）『中国文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房

尾形勇ほか著（2021）『日本にとって中国とは何か』講談社学術文庫

武田雅哉ほか編著（2022）『中国文学をつまみ食い』ミネルヴァ書房

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目					
	基礎科目	多文化共生基礎 F (国際政治論)	多文化共生基礎 C (文化人類学) D (芸術文化論)		
	専門外国語科目	中国語専門基礎 A、B	中国語講読 A、C 中国語会話	中国語講読 D 中国語文章表現 外国語臨地演習	
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会		中国文化論 近現代中国論 韓国文化論	アジアの歴史と思想	
	欧米文化社会		フランス文化論		
	日本文化社会		日本史概説		
	比較文化社会		表象文化論		
	言語・コミュニケーション		日本語論、日本語史		
	国際協力 国際共生	ジェンダー論	移民と多文化教育 多文化共生教育		
	その他	国際キャリア教育	International Career Seminar	交換留学	国際キャリア 実習
	卒業研究関連			アジア太平洋文化社会 研究C(中国文化論演 習)(梁) 卒業研究準備演習 (梁)	卒業研究 I・II(梁)
基盤教育科目		中国語基礎 I・II			



アジア太平洋文化社会研究 E（中東地域研究演習）

Studies of Asia Pacific Culture and Society E (Seminar in Area Studies of the Middle East)

松尾 昌樹 MATSUO Masaki

キーワード：地域研究・中東・政治経済・資源・移民・政治体制

学問的特徴：中東地域を中心に、社会・経済・政治問題を、現地の文脈において分析する手法を獲得する。中東地域に関する基礎的な知識を有していることが望ましい。そのうえで、学生はそれぞれの興味に応じて、経済学、政治学、人類学、実証分析手法などに関する知識を有していることが望ましい。

専門分野：中東地域研究、国際政治経済 中東地域を対象に、特定の政治体制（民主主義・権威主義）が持続する要因を、その国の経済構造や社会構造から、社会科学的分析手法に基づいて明らかにする研究を進めています。近年は、石油資源に基づく経済構造や、多くの移民を受け入れることが、権威主義体制の持続に影響を与えるということ、統計データやモデルを元に分析しています。

指導方針：3年次の演習では、中東地域研究の基本となるような文献を輪読します。また、先行研究の再現実験を通じて、分析技術を修得します。輪読の後に、各参加者の関心に即したテーマで調査・発表を行います。参加者が進んで学習や調査に取り組む姿勢が求められます。

主な執筆論文・文献：

Ishii, M., H. Naomi, M. Matsuo and K. Horinuki eds., *Asian Migrant Workers in the Arab Gulf States: the growing foreign population and their lives*, Brill, 2019.

Matsuo, M. “Ethnocracy in the Arab Gulf States: Oil Rent, Migrants and Authoritarian Regimes”, in Lian, L. F., H. Naomi and M. Ishii, *International labor migration in the Middle East: issues of inclusion and exclusion*, Springer, 2019.

松尾昌樹、浜中新吾共訳、マイケル・ロス著『石油の呪い』吉田書店、2017年

松尾昌樹「増え続ける移民労働者に湾岸アラブ諸国政府はいかに対応すべきか」細田尚美編『湾岸アラブ諸国における移民労働者 「多外国人国家」の出現と生活実態』明石書店、2014年

松尾昌樹『オマーンの国史の誕生 オマーン人と英植民地官僚によるオマーン史表象』御茶の水書房 2013年

松尾昌樹「湾岸諸国における移民労働者 越境が生み出す格差と社会」酒井啓子編『中東政治学』有斐閣、2012年

この分野を知るための基本的な文献紹介：

末近浩太・松尾昌樹編『中東を学ぶ人のために』世界思想社、2024年

松尾昌樹、浜中新吾共訳、マイケル・ロス著『石油の呪い』吉田書店、2017年

松尾昌樹『湾岸産油国 レンティア国家のゆくえ』講談社、2010年

卒業論文題目例：「外国籍者への排外意識と脅威認識について」（2022年）

「子どもの学力における学校外教育の効果—パネルデータを用いて—」（2022年）

「フランスのライシテとイスラーム移民—アルザス地方からみるライシテ—」（2016年度）

「アルジャジーラの報道の政治的側面に関する検証」（2014年度）

「エジプトの民主化しない構造—「エジプト革命」以降の体制変動から見えるもの—」（2014年度）

「フランスの移民—セキュリティゼーションと大統領選挙」（2013年度）

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目		多文化共生基礎 C			
基礎科目		多文化共生基礎 G			
専門外国語科目		特に指定しない			
グローバル 専門科目	アジア太平洋文化社会		中東地域研究 民族誌学		
	欧米文化社会				
	日本文化社会				
	比較文化社会	国際事象の実証分析	社会調査法入門		
	言語・コミュニケーション				
	国際協力		途上国経済発展論		
	国際共生	ミクロ経済学	マクロ経済学		
その他					
卒業研究関連				アジア太平洋文化社会 研究 E(中東地域研究 演習)(松尾) 卒業研究準備演習 (松尾)	卒業研究 I・ II(松尾)
基盤教育科目		中東の社会と文化(教 養科目・社会科学系科 目・松尾)			

2 地域研究系 ②欧米文化社会研究グループ/Studies of European and American Culture and Society

○欧米文化社会研究 A

(フランス文化論演習)

Studies of European and American Culture and Society A

(Seminar in French Cultural Studies)

○欧米文化社会研究 B

(イギリス文化論演習)

Studies of European and American Culture and Society B

(Seminar in British Cultures)

○欧米文化社会研究 E

(アメリカ文化論演習)

Studies of European and American Culture and Society E

(Seminar in American Cultural Studies)

○欧米文化社会研究 H

Studies of European and American Culture and Society H

(Seminar in Latin American Studies)



欧米文化社会研究 A(フランス文化論演習)

Studies of European and American Culture and Society A

(Seminar in French Cultural Studies)

槇野 佳奈子 MAKINO Kanako

キーワード：フランス・ヨーロッパ・西洋史・ヨーロッパ思想史・フランス文学

学問的特徴：フランス語圏の文学・思想・歴史・文化について考察します。フランス語科目に加えて、歴史・文化・芸術に関する科目など、ご自身の関心に合わせて履修しておいて下さい。

専門分野：フランス文学・思想史 19世紀フランスの批評家たちが、当時発明されたばかりの写真技術を「科学」と「芸術」との関係の中でいかに受け入れていったのかという点、そして同時代の「科学」と「非科学」の境界はいかに認識されていたのかという点について、当時の出版物を中心に研究しています。

指導方針：3年次の演習ではフランス語圏に関する基本的な文献を読み込み、そこから自らの見解を構築する力をつけていきます。こうした作業に加えて、各自の関心に基づいた調査・分析・発表をしてもらいます。2年次までにフランス語科目をしっかり履修しておいて下さい。実際に文献や資料を読むことでフランス語の力は少しずつ着実についていきますので、一緒に頑張りましょう。

主な執筆論文・文献：

(単著)

『科学普及活動家レイ・フィギエ——万人のための科学、夢想としての科学』水声社、2023年。

(共訳)

レジス・メサック『「探偵小説」の考古学』石橋正孝監訳、池田潤、佐々木匠、白鳥光、槇野佳奈子、山本佳生訳、国書刊行会、2021年。

(論文)

「科学普及活動家レイ・フィギエと死後の魂をめぐる問題」『科学史研究』日本科学史学会、第294号、2020年。
「レジス・メサックの博士論文とヴァルター・ベンヤミン——探偵小説の起源をめぐる」『大衆文化』第25号、2021年。

「科学普及活動家レイ・フィギエとフランスにおける初期の写真技術」『科学史研究』日本科学史学会、第303号、2022年。

この分野を知るための基本的な文献紹介：

G・ベルティエ・ド・ソヴィニー『フランス史』楠瀬正浩訳、講談社選書メチエ、2019年。

田村毅（編）『フランス文化事典』丸善出版、2012年。

卒業論文題目例：

「ブリア＝サヴァランの時代的美食と現代的美食」

「シャルル・ペローとグリム兄弟の童話における菓子と現代への影響」

「19世紀フランスにおける風刺画の役割と社会に与えた影響」

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目					
	基礎科目	多文化共生コア A (国際関係論) 多文化共生基礎 C (文化人類学) 多文化共生基礎 D (芸術文化論)			
	専門外国語科目		フランス語講読 A～D (槇野) フランス語会話	フランス語講読 A～D (槇野)	
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会		中東地域研究	アジアの歴史と思想	
	欧米文化社会		フランス文化論 (槇野)		
	日本文化社会			Japan's International Relations	
	比較文化社会		表象文化論		
	言語・コミュニケーション				
	国際協力		移民と多文化教育 アフリカ論		
	国際共生	ジェンダー論			
その他			交換留学		
卒業研究関連			欧米文化社会研究 A (フランス文化論演習) (槇野) 卒業研究準備演習 (槇野)	卒業研究 I・II (槇野)	
基盤教育科目	フランス語基礎 I-II フランス文学	フランス語専門基礎 A/B もしくは フランス語応用 I-II (槇野)			



欧米文化社会研究 B

Seminar in Studies of European and American Culture and Society B

(イギリス文化論演習) (Seminar in British Cultures)

出羽 尚 IZUHA Takashi

キーワード：絵画・彫刻・建築・工芸・デザイン・書物・服飾・庭園・文学・美学・自然など

学問的特徴：イギリスを中心とした文化について考察する。研究対象は「イギリス文化論」、「Cultures of the English-Speaking World」、「芸術の世界」（基盤）で扱ったものやそれに関連する分野のほか、受講生の関心に応じて自由に設定できる。

専門分野：西洋美術史 イギリスを中心とした西洋の美術史を研究している。なかでも自然を題材とした 18-19 世紀の風景画に興味を持っている。

指導方針：①**調査：**実際に触れることが文化を研究する上では最も重要なことである。そのための見学調査を行う。調査の準備・実施・整理の作業が重要な研究の訓練となる。
②**講読：**文献資料の活用は人文科学の基本である。その訓練となる文献講読を行う。演習ではイギリスを対象とするため、少なくとも英語で読む作業ができなければならない。
③**活用：**調査・講読の成果を整理・活用して初めて研究となる。そのための体系的な資料の整理法、効果的な口頭発表、論理的な文章執筆の技術を身につける。

主な執筆論文・文献：

- 論文** 「一九世紀初頭英仏風景画の比較から見るターナーの空間構成」『美学』60-2(2009 年)
「挿絵から見る『四季』：落穂拾いのラヴィーニアの表現を中心に」『イギリス・ロマン派研究』37(2013 年)
『イメージ制作の場と環境』(中央公論美術出版, 2018 年)
- 翻訳** 『魅惑のコスチューム バレエ・リュス』国立新美術館(2014 年)
『マリー・アントワネット展』森アートセンターギャラリー(2016 年)
『ヌード NUDE —英国テート・コレクションより』横浜美術館 (2018 年)
『ブダペスト—ヨーロッパとハンガリーの美術 400 年』国立新美術館 (2019 年)
『テート美術館展 光 ターナー、印象派から現代へ』国立新美術館 (2023 年)

この分野を知るための基本的な文献紹介：

- 下楠昌哉編『イギリス文化入門』三修社 2010 年
川崎寿彦『庭のイングランド』（新装版）名古屋大学出版会 1997 年
木村三郎『西洋近代絵画の見方・学び方』左右社 2011 年

卒業論文題目例：「思想とライフスタイルから考察する北欧デザインの実態」「ミュシャのポスター作品における造形表現」「民芸とプロダクトデザインから見るモノの価値」「インドにおける大衆宗教画の成立と展開」「ケルト神話における妖精信仰」「網膜的鑑賞者からの脱却へー岡本太郎の芸術思想を超えて」

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目		多文化共生基礎 D (芸術文化論)			
基礎科目					
専門外国語科目		特に指定しない	English for Current Events (出羽)		
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会		韓国文化論 中国文化論	アジアの歴史と思想	
	欧米文化社会	イギリス文化論(出羽)	フランス文化論 アメリカ文化論 アメリカ文学史		
	日本文化社会		日本文化論		
	比較文化社会		Cultures of the English-Speaking World (出羽) 表象文化論		
	言語・コミュニケーション		Learning a Different World through English		
	国際協力		移民と多文化教育		
	国際共生	ジェンダー論			
その他	International Career Seminar 外国語臨地演習	International Communication Seminar (出羽ほか) 外国語臨地演習	交換留学		
卒業研究関連			欧米文化社会研究 B (イギリス文化論演習) (出羽) 卒業研究準備演習(出羽)	卒業研究 I・II (出羽)	
基盤教育科目	芸術の世界(基盤教養科目・出羽)				



欧米文化社会研究 E (アメリカ文化論演習)
Studies of European and American Culture and Society E
(Seminar in American Cultural Studies)

米山 正文 YONEYAMA Masafumi

キーワード：多文化、統合化、アメリカ合衆国、文化、歴史

学問的特徴：植民地時代から現代までのアメリカ合衆国の文化史について考察します。

専門分野：米国学研究 19 世紀米国のロマン主義文学といわれる小説や詩、自伝、旅行記を研究しています。ナショナリズムや市民宗教、民族や階級と文学との関係に注目しています。

指導方針：3 年次の演習は発表形式で行っています。テキストの内容に基づいて各自が調査・分析し、発表します。授業では発表に基づき、質疑応答を行います。調査や分析のための文献読解力や、発表のための論理的思考力が必要となります。また、与えられていることをただこなしているだけでは力つきません。意欲や好奇心を持って能動的に対象に取り組むことが大切です。

主な執筆論文・文献：

「虚構としての〈信〉——『詐欺師』と 19 世紀ユニテリアニズム」

(根本治監修、松崎博・米山正文編 『国家・イデオロギー・レトリック——アメリカ文学再読』
南雲堂フェニックス 2009 年 所収)

「「黒い」主人、「白い」奴隷——「ベニト・セレノ」における反乱の意味」

(吉田廸子ほか『ターミナル・ビギニング——アメリカの物語と言葉の力』論創社 2014 年 所収)

この分野を知るための基本的な文献紹介：

ロナルド・タカキ 『多文化社会アメリカの歴史——別の鏡に映して』明石書店 1995 年

小田隆裕他編 『事典 現代のアメリカ』大修館書店 2004 年

アレクシス・ド・トクヴィル 『アメリカのデモクラシー』(上・下) 岩波文庫 2005 年

卒業論文題目例：「黒人差別の歴史と黒人映画の変容

～スパイク・リー監督が伝えるメッセージとは～」(2022年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目		多文化共生基礎	多文化共生基礎		
	基礎科目	A(Comparative Study of Culture)	D(芸術文化論)		
	専門外国語科目	1 言語は英語			
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会			アジアの歴史と思想	
	欧米文化社会	イギリス文化論	アメリカ文化論(米山) アメリカ文学史(米山) アメリカの経済と社会 イギリス文学史	世界の歴史と文化	
	日本文化社会			Japan's International Relations	
	比較文化社会		表象文化論 Cultures of the English-Speaking World		
	言語・コミュニケーション	言語学	英語学関連科目		
	国際協力		移民と多文化教育		
	国際共生	ジェンダー論			
	その他		International Communication Seminar	交換留学 外国語臨地演習	
	卒業研究関連			欧米文化社会研究 E (アメリカ文化論演習)(米山) 卒業研究準備演習(米山)	卒業研究 I・II (米山)
基盤教育科目		米文学入門(教養科目・人文科学系科目・米山)			



欧米文化社会研究 H Seminar in Studies of European and American Culture and Society H

(ラテンアメリカ論演習) (Seminar in Latin American Studies)

スエヨシ アナ SUEYOSHI Ana

キーワード：ラテンアメリカ社会・ラテンアメリカ経済・ラテンアメリカの政治・ラテンアメリカの文化

学問的特徴：ラテンアメリカの地理、歴史、経済、社会、文化を研究対象とし、これらの個別の事例に依拠しつつ、国家間の関係や交流を分析し、そこに存在する共通性や相違点などを考察する。

専門分野：ラテンアメリカの財政政策 ラテンアメリカ及びカリブ海沿岸における長期経済成長と財政政策、内生的な経済成長についての研究を専門としています。宇都宮大学に赴任してからは、日本におけるラテンアメリカ出身の労働者の状況とその子供の教育、ペルーへ帰国した子供の教育、ペルーの日系社会を通じて形成された日本に対するイメージについての研究も行っています。

指導方針：研究指導は基本的に、専門科目の講義と演習を通じて、ラテンアメリカの社会、文化、経済、政治、歴史等を紹介し、学生に興味のあるテーマを選択させる形で行います。学生には選択した分野の学術論文を読ませ、卒業論文のテーマを十分に絞らせると同時に、セミナーを通じて、資料やデータの収集、参考文献の整理、データの分析、文章の書き方など論文執筆に必要なことを適時指導していきます。学術研究は先行研究の理論枠組みを十分に理解した上で、自らのアプローチにより結論を導き出すことが重要です。また、卒業論文の執筆は英文でも邦文でも構いませんが、英文による執筆を希望する場合は英語科目の履修が必要になります。

主な執筆論文・文献：

“International Circular Migration and Differences in Identity Building of Nikkei Peruvians (世代間循環型移住と日系ペルー人のアイデンティティ形成における差)” *Journal of the Faculty of International Studies, Utsunomiya University*, No 48, September 2019, 47-58.

深澤誠哉 (共) 「ペルーにおける党制度の長引く危機の原因とその結果—不安定な政治と安定的な経済—」『多文化公共圏センター年報第 15 号 2022 宇都宮大学国際学部 113-121.』

深澤誠哉 (共) 「ブラジルとペルーにおける分析—民政移管以降の大統領選挙と汚職—」『宇都宮大学国際学部研究論集』 No. 56 (2023 年 9 月) 101-109.

この分野を知るための基本的な文献紹介：

Hillman, Richard S. et al. (2011) *Understanding Contemporary Latin America*, 4th ed., Lynne Rienner Publishers Inc.

Skidmore, Thomas E. et al. (2010) *Modern Latin America*, 7th ed., Oxford University Press.

Engerman, Stanley L. et al. (2012) *Economic Development in the Americas since 1550. Endowments and Institutions*, Cambridge University Press.

卒業論文題目例：

Technological Transfer through Malaysia Look East Policy Education Program- From Graduates Perspective (マレーシア東方政策教育プログラムによる技術移転) (2023 年度)

The Role of Ethnic Politics in Political Stability & Democratic Governance in Malaysia (マレーシアにおける民族政治：政治的安定性と民主的ガバナンス) (2023 年度)

The Motivation and Obstacle for the Heritage Speakers of Interlingual Families to Change the Family Language Policy (FLP) (異言語間家族における継承語話者の家庭内言語教育方針を変える動機と壁) (2020 年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年	1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目 基礎科目	多分か共生コア A (国際関係論) 多文化共生基礎 F (国際政治論)	多文化共生基礎 G (国際経済論)		
専門外国語科目	スペイン語基礎Ⅲ・Ⅳ	スペイン語会話 スペイン語講 A・B 外国語特別演習 D I・II (ポルトガル語)	スペイン語講 C・D スペイン語文章表現 外国語演習	
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会			
	欧米文化社会		ヨーロッパ思想文化論 Introduction to Latin American Studies (スエ ヨシ) Latin American Politics and Society(スエヨシ)	
	日本文化社会			
	比較文化社会		East/West:A Comparative Perspective	
	言語・コミュニケーション			
	国際協力		途上国経済発展論	グローバル化と外国 人児童生徒教育
	国際共生		経済学概論 International Political Economics	経済政策論
その他		International Career Seminar	交換留学	国際キャリア実習
卒業研究関連			欧米文化社会研究 H (Seminar in Latin American Studies) (スエヨシ) 卒業研究準備演習 (スエヨシ)	卒業研究 I・II (スエヨシ)
基盤教育科目	スペイン語基礎Ⅰ・Ⅱ	スペイン語応用Ⅰ・Ⅱ		

3 地域研究系 ③日本文化社会研究グループ/Studies of Japanese Culture and Society

○日本文化社会研究 A

(日本文化論演習)

Studies of Japanese Culture and Society A

(Seminar in Japanese Culture)

○日本文化社会研究 B

(日本語論演習)

Studies of Japanese Culture and Society B

(Seminar in Japanese Linguistics)

○日本文化社会研究 C

(地域社会論実習)

Studies of Japanese Culture and Society C

(Practicum in Rural Sociology)



日本文化社会研究 A（日本文化論演習）

Studies of Japanese Culture and Society A (Seminar in Japanese Culture)

松井 貴子 MATSUI Takako

キーワード：伝統・近代化・異質性と同質性・文化発信

学問的特徴：日本で生まれ育った日本人にとって、日本文化は空気のように存在しているのではないのでしょうか。それを意識化し、相対化することによって、その特質を把握し、文化発信について考えます。日本文化について考察するには、伝統の継承と近代化による断絶、多文化間の異質性と同質性という視点が有効です。文献、図像・映像資料を使い、自分の感覚、実体験を活かして研究を進めます。

専門分野：日本文化・比較文学比較文化・日本近代文学

西洋受容による日本の近代化について、日本文学への西洋美術の影響という視点から、俳句の詩学をテーマとして研究してきました。様々なジャンルを横断して見出される日本文化と他文化との異質性と同質性に関心を持っています。

指導方針：1、2年次から、自分でテーマを見つけて、資料を調査し、考察して、発言し、文章にまとめることを、意識して身につけて下さい。基盤科目では実技を加えて日本語と日本文化への理解を深めます。専門科目では、**Books on Japan** を教材として、日本について考察を進めます。卒業研究は、一人一人が関心を持っているテーマに応じて指導しますので、自由に構想してください。必要な資料調査を行うこと、様々な資料に基づいて自分で考えること、根拠を明示して自分の考えを表明すること、他人に読んでもらうための文章を書くこと、これらは、優れた論文の作成に不可欠であると同時に、社会に出てからも必要かつ有用なことです。

主な執筆論文・文献：

- 『写生の変容—フォンタネージから子規、そして直哉へ』（明治書院 2002年、第7回比較文学会賞受賞）
- 「俳句の特質と季節認識—多文化への発信」（2010世界日本語教育大会「多文化の中の日本語教育と日本研究」論文集 台湾国立政治大学外国語文學院編 大新書局 2010年）
- 「俳人としてのチェコ人大学生—チェコ共和国パツキー大学での俳句講義と句会」（「宇都宮大学国際学部研究論集」30号 宇都宮大学国際学部 2010年）
- 「ハワイの冬の俳句」（「宇都宮大学国際学部研究論集」33号 宇都宮大学国際学部 2012年）
- 「『俳句』試訳—アメリカ発俳句入門（1）～（3）」（「外国文学」56、61、62号 宇都宮大学外国文学研究会 2007、2012、2013年）
- 「アラスカの夏の俳句（1）～（4）」（宇都宮大学国際学部研究論集」34、35、43、47号 宇都宮大学国際学部 2012、2013、2017、2019年）
- 「加藤楸邨の短歌—短詩としての歌俳」（「日本文藝學」54号 日本文芸学会 2018年）
- An Essay on Japanese Seasonal Events with Haiku（「融合文化研究」25～29号 国際融合文化学会 2017～2021年）

この分野を知るための基本的な文献紹介：

直塚玲子『欧米人が沈黙するとき』大修館書店 1980年

松原久子『和魂の時代』三笠書房 1987年

国学院大学日本文化研究所編『近代化と日本人の生活』同朋舎出版 1994年

石川実・井上忠司編『生活文化を学ぶ人のために』世界思想社 1998年

卒業論文題目例：「日本の和食と海外の日本食—ベトナムを例に」2018年

「「銀河鉄道の夜」から見る宮澤賢治の死生観」2018年

「女性の衣服における日本文化の発現」2018年

「学徒兵が身に受けた生と死—『きけわだつみのこえ』をどう読むか—」2019年

「福島県に伝わる地芝居の伝承形態と教育の場における取り組みについて」2019年

「新作能における文化融合」2019年

「中世から明治時代までの日本文学で辿る日本の女性観の変遷」2021年

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目					
	基礎科目	多文化共生基礎 A(Comparative Study of Culture)	多文化共生基礎D(芸 術文化論)		
	専門外国語科目	特に指定しない			
グローバル 専門科目	アジア太平洋文化社会			アジアの歴史と思想	
	欧米文化社会			世界の歴史と文化	
	日本文化社会		日本文化論(松井)		
	比較文化社会		哲学概論		
	言語・コミュニケーション		対人コミュニケーション論		
	国際協力		Intercultural Education		
	国際共生		人の国際移動		
	その他	海外体験	多文化公共圏実践演習(グローバル/グローバル) A、B	交換留学	
	卒業研究関連			日本文化社会研究 A (日本文化論演習) (松井) 卒業研究準備演習 (松井)	卒業研究 I・II(松井)
基盤教育科目		言語表現の世界 B(日本文化)、芸術の世界 B(身体文化)/人文科学系(人間と文化)(松井)			



日本文化社会研究 B (日本語論演習)

Studies of Japanese Culture and Society B (Seminar in Japanese Linguistics)

高山 道代 TAKAYAMA Michiyo

キーワード：日本語の歴史的変化・現代日本語・古代日本語・地域語・語彙論・文法論・文体論・日本語と他言語との対照

学問的特徴：講義科目では日本語の歴史的変化を視野に入れながら、語彙論、文法論を中心とした日本語学の諸領域についてとりあげます。演習科目ではそれに加えて地域語についてもとりあげ、各研究領域における基礎的な文献を講読するとともに、言語分析のための調査法をまなびます。

専門分野：日本語学・日本語史 日本語の歴史的変化を視野に入れながら、日本語の語彙、文法について研究しています。特に、日本語の名詞の格標示機能について、形態論および語彙論的な立場から研究を進めてきました。意味、形態、統語すべての文法領域に関心をもって研究をおこなっています。

指導方針：3年次の演習では、講義科目でとりあげてきた語彙論、文法論、文体論等の日本語学の諸領域、日本語史に関する学术论文に加え、地域語に関する基礎的な学术论文を読み、検討をおこないます。日本語学、日本語史の基礎知識を身に付けていることを前提に進めますので、2年次までに関連科目を履修しておくことをお勧めします。社会言語学領域は言語学的な視点に加えて文化人類学的な視点とも関わるので、関心のあるかたはこうした関連科目の履修もお勧めします。

主な執筆論文・文献：

「主語表示の名詞ノと名詞ガ—源氏物語における用法から—」『対照言語学研究』18号、2008年、PP. 49-62

「平安期日本語における動詞述語文の主語標示—ノ格とガ格のふるまいから」須田淳一・新居田純野編『日本語形態の諸問題』ひつじ書房、2010年、PP. 191-202

「平安期日本語の対象語表示の名詞-ヲ再考—語形態と語彙的意味における有標識性の差異をめぐって—」『外国文学』62号、2013年、PP. 31-43

『平安期日本語の主体表現と客体表現』ひつじ書房、2014年

「言語分析における『ゼロ記号』の意義をめぐって—格標示機能に焦点をあてて—」『歴史言語学』7号、2018年、PP. 17-33

この分野を知るための基本的な文献紹介：

角田太作『世界の言語と日本語』1991年、くろしお出版

金田一春彦『日本語（上）（下）』1988年、岩波書店（新書赤2）

池上嘉彦『意味の世界—現代言語学から視る』1978年、日本放送出版協会

卒業論文題目例：現代における「おもちゃ化」した方言とLINEスタンプ(2023年度)
 接続詞デモの初出時の様相(2023年度)
 ベトナム語母語話者の日本語発音改善におけるVT法の応用(2023年度)
 「漫画『ONE PIECE』における笑い声について」(2022年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目/学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目		多文化共生基礎B (言語学)	多文化共生基礎C (文化人類学)		
基礎科目					
専門外国語科目		特に指定しない			
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会			民族誌学	
	欧米文化社会			世界の歴史と文化	
	日本文化社会		日本語論(高山) 日本語史(高山) 日本文化論	日本史概説A 日本史概説B	
	比較文化社会		哲学概論		
	言語・コミュニケーション		言語比較論 Linguistic Typology and Language Communication	Phonetics and Phonology 日本語教育と国際協力 言語と認知科学	
	国際協力	グローバル化と外国人 児童生徒教育			
国際共生	ジェンダー論	Globalization and Society			
その他		情報と倫理	多文化公共圏実践演 習(グローバル)	交換留学	
卒業研究関連				日本文化社会研究B (日本語論演習)(高 山) 卒業研究準備演習 (高山)	卒業研究I・ II(高山)
基盤教育科目		ことばからみた人間		社会言語学概論—日 本語の変遷—	



日本文化社会研究 C (地域社会論実習) Studies of Japanese Culture and Society C (Practicum in Rural Sociology)

古村 学 KOMURA Manabu

キーワード：フィールドワーク・村落社会・途上国・批判精神

学問的特徴：人類学や社会学の研究手法であるフィールドワークによって、ローカルな場である村落社会を理解し、そのうえでグローバルな現代社会を考えます。ここで重要なのは、ものごとを単純に考えるのではなく、批判的視点をもつことです。批判精神がなければ、思考停止するため、村落社会を正しく見ることはできません。この実習では、参加者が協力し、村落調査をおこないます。実習で身につけた能力をもとに、実習終了後は独力でのフィールドワークをおこなってもらいます。

専門分野：おもに日本の離島などの村落社会において、フィールドワークをおこなっています。「ふつう」に生活をおくっている人々の視点から、グローバルな現象を読みなおす研究をおこなっています。

指導方針：わたくしの指導方針は徹底したフィールド主義です。フィールドでの経験は、知識面だけでなく、考え方や生き方にまで大きな影響を与えるものです。社会調査法入門で学んだ村落社会をデータから見る能力、地域社会論で学んだ村落の知識および批判精神を発展させ、実習では、事前学習、現地調査、データ分析、報告書作成といった社会調査の一連の作業をおこないます。これらの作業を通じて、自らの力で社会調査をおこなえる力を養い、実習終了後には卒業論文に向けて最低でも三カ月以上の住み込みでのフィールドワークをおこなってもらいます。また、知識もないまま調査をすることは、フィールド先への迷惑行為でしかないので、最低でも週一冊以上の本を読んでももらいます。

主な執筆論文・文献：

- 「エコツーリズム研究」(江口信清・藤巻正巳編『観光研究レファレンスデータベース 日本編』明石書店、2011)
- 「ケニアにおける観光」(松田素二・津田みわ編『ケニアを知るための 55 章』明石書店、2012)
- 『離島エコツーリズムの社会学——隠岐・西表・小笠原・南大東の日常生活から』吉田書店、2015
- 「小笠原諸島におけるスポーツ」今泉隆裕・大野哲也編『スポーツをひらく社会学』嵯峨野書院、2019
- 宇都宮大学国際学部 古村研究室編『地域社会論実習調査報告書 地域から未来を見つめる』(第1集～第6集) 2012～2022)

この分野を知るための基本的な文献紹介：

好井裕明 (2006) 『あたりまえを疑う社会学』 光文社 (新書)
 太田好信・浜本満編 (2005) 『メイキング文化人類学』 世界思想社
 鳥越皓之 (1993) 『家と村の社会学 増補版』 世界思想社

卒業論文題目例：「核燃料サイクルの語り」 (2012 年度)、「語られる福島を超えて」、「現代農村に生きる女性たち」 (2013 年度)、「農と人の暮らし」、「ドイツビオブームの功罪」、「西米良に生きる人びと」 (2014 年度)、「消えゆく農耕馬の語り」 (2015 年度)、「基地のある『日常』」、「神楽とまつり」、「追憶のタイムマス」、「『のくとまり』の温泉地」 (2016 年度)、「延年を担う」 (2017 年度)、「太平洋に響く太鼓」 (21 年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目	基礎科目		多文化共生基礎 C (文化人類学) H (国際社会論)		
	専門外国語科目	特に指定しない			
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会		東南アジア論 中東地域研究	民族誌学 アジアの歴史と思想	
	欧米文化社会		フランス文化論		
	日本文化社会		地域社会論(古村)		
	比較文化社会	国際事象の実証分析	社会調査法入門(古村) 表象文化論		
	言語・コミュニケーション		対人コミュニケーション論		
	国際協力		環境と国際協力 国際協力論 途上国経済発展論		
	国際共生		人の国際移動 国際機構論		
その他	国際キャリア教育	海外フィールドワーク 演習 I、II	交換留学		
卒業研究関連			日本文化社会研究C (地域社会論実習) (古村) 卒業研究準備演習 (古村)	卒業研究 I・II (古村)	
基盤教育科目					

4 異文化理解・コミュニケーション系 ①比較文化社会研究グループ/Studies of Comparative Culture and Society

○比較社会文化研究 A

(比較文化演習)

Studies of Comparative Culture and Society A

(Seminar in Comparative Culture and Thought)

○比較社会文化研究 B

(表象文化論演習)

Studies of Comparative Culture and Society B

(Seminar in Representations and Criticism)

比較文化社会研究 A

Studies of Comparative Culture and Society A

(比較文化演習) (Seminar in Comparative Culture and Thought)

モリス、ジェームズ・ハリー MORRIS, James Harry

キーワード：史学・社会学・研究方法・アーカイブ調査・定性的研究

学問的特徴：国境を越えた人々がホスト国でのメンバーシップをどのように主張するのか、その過程でジェンダー、人種、階級などの社会的カテゴリーはどのような影響を与えるのかを学びます。また、質的研究方法を活用してデータを収集し、分析する方法を学びます。

専門分野：歴史学および宗教学を専攻し、特に日本における外来宗教史を研究しています。アーカイブ調査、近世史料の古書体学、デジタル人文学の分野において豊富な経験を持つほか、民俗学的・社会的な研究手法の訓練と経験も積んでいます。

指導方針：さまざまなリサーチ方法に関する文献を読み、自主研究プロジェクトを通して学んだことを実践します。また、その経験を批判的に振り返ります。

主な執筆論文・文献：

- L.W. Cornelis van Lit and James Harry Morris, eds. *Digital Humanities and Religions in Asia: An Introduction* (Berlin: De Gruyter, 2023).
- James Harry Morris, “Japanese Texts in the Digital Age: Thoughts on New Possibilities in the Transcription of Pre-Modern Japanese,” in *Practicing Japan. 35 Years of Japanese Studies in Poznań and Kraków* edited by Y. Horie, H. Jaskiewicz, I. Rutkowska et al. (Poznań: Wydawnictwo Rys, 2024), 111-122.
- James Harry Morris, “Non-Christian Religions in the work of Uchimura Kanzō,” *Cross Currents* 71, no. 2 (University of North Carolina Press, June 2021): 196-219.

この分野を知るための基本的な文献紹介：

- Robert Alter, *The Art of Biblical Narrative* (New York: Basic Books, 1981)
- L.W. Cornelis van Lit and James Harry Morris, eds. *Digital Humanities and Religions in Asia: An Introduction* (Berlin: De Gruyter, 2023).
- Niamh Moore, et al., *The Archive Project: Archival Research in the Social Sciences* (London: Routledge, 2017).
- Laura Moretti, *Pleasure in Profit: Popular Prose in Seventeenth-Century Japan* (New York: Columbia University Press, 2020).
- Karen O'Reilly, ed., *Ethnographic Methods* (London: Routledge, 2012).
- V. Y. Mudimbe, *The Invention of Africa: Gnosis, Philosophy and the Order of Knowledge* (Bloomington: Indiana University Press, 1988).

● <履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目 / 学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目		多文化共生基礎 A (Comparative Study of Culture)	多文化共生基礎 H (国際社会論) C (文化人類学)		
基礎科目					
専門外国語科目		〈特に指定しません。関心に沿って履修してください〉			
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会	〈特に指定しません。関心に沿って履修してください〉			
	欧米文化社会	〈特に指定しません。関心に沿って履修してください〉			
	日本文化社会	〈特に指定しません。関心に沿って履修してください〉			
	比較文化社会		社会調査法入門 East/West: A Comparative Perspective	Seminar in Comparative Study of Culture	
	言語・コミュニケーション	〈特に指定しません。関心に沿って履修してください〉			
	国際協力		移民と多文化教育		
	国際共生	ジェンダー論	人の国際移動		
その他	国際キャリア教育		交換留学 外国語臨地演習		
卒業研究関連					
基盤教育科目					



比較社会文化研究 B（表象文化論演習）

Studies of Comparative Culture and Society B (Seminar in Representations and Criticism)

大野 斉子 ONO Tokiko

キーワード：表象・文学・芸術

学問的特徴：文化（文学、芸術等）におけるイメージを様々な理論を通じて考察します。文化関連の科目は勿論、社会科学系の学問にも関わりを持つ領域ですので、幅広く学んでください。

専門分野：ロシア文学・文化 18世紀から20世紀初頭の帝政ロシア時代の文学・文化を専門に研究しています。文学のメディア論や、香水産業の歴史など文学・文化史を複数の視点から見直すテーマに関心を持っています。

指導方針：表象文化論の枠内で研究するために必要な理論にはどのようなものがあるのか、表象文化論の研究とはどのようなものかを学ぶため、3年次には概説書を複数講読します。これと並行して各自が関心のあるテーマの模索を始め、それに合わせた文献を読み進め、発表を行います。

主な執筆論文・文献：

「F. ソログープ『毒の園』考—象徴主義芸術における香りと吸血鬼の意味論」（『宇都宮大学国際学部研究論集』、2012年）

『シャネルNo.5の謎—帝政ロシアの調香師』（群像社、2015年）

「ゴゴリ『ディカーニカ近郷夜話』の神話論的分析—ゴゴリのウクライナ性とウクライナをめぐるロシアのディスコース」（『SLAVISTIKA』、2016年）

この分野を知るための基本的な文献紹介：

渡辺保、小林康夫、石田英敬『表象文化研究』（放送大学教育振興会、2006年）

テリー・イーグルトン『文学とは何か—現代批評理論への招待』（岩波文庫、2014年）

多木浩二『欲望の修辞学』（青土社、1996年）

中山元『フーコー入門』（ちくま新書、1996年）

卒業論文題目例：

「中島晴美の陶芸オブジェから分析する集合体恐怖の美術作品における効果」(2016年度)

「シンデレラ伝承に見るこれからのプリンセスストーリー」(2015年度)

「女性印象派画家による母子像の変容」(2013年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目		多文化共生基礎	多文化基礎		
	基礎科目	B(言語学)	C(文化人類学) D(芸術文化論)(大野)		
専門外国語科目		特に指定しない			
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会		韓国文化論		
	欧米文化社会			ヨーロッパ思想文化論	
	日本文化社会		地域社会論		
	比較文化社会		表象文化論(大野)		
	言語・コミュニケーション			言語比較論	
	国際協力		Theory of Global Governance		
	国際共生	ジェンダー論			
その他	国際キャリア教育	International Career Seminar	交換留学 外国語臨地演習	国際キャリア実習	
卒業研究関連			比較社会文化研究B(表象文化論演習)(大野) 卒業研究準備演習(大野)	卒業研究I・II(大野)	
基盤教育科目	ヨーロッパ地域文化論(出羽・大野)				

5 異文化理解・コミュニケーション系 ②言語・コミュニケーション研究グループ/Language and Communication Studies

○言語・コミュニケーション研究 A

(言語学演習)

Language and Communication Studies A

(Seminar in Linguistics)

○言語・コミュニケーション研究 B

Language and Communication Studies B

(Seminar in Phonetics and Language Teaching/Learning)

○言語・コミュニケーション研究 D

(日本語教育と国際協力演習)

Language and Communication Studies D

(Seminar in International Cooperation and Japanese Language Education)

○言語・コミュニケーション研究 F

(対人コミュニケーション論実験)

Language and Communication Studies F

(Experiment in Interpersonal Communication)

○言語・コミュニケーション研究 G

(情報ネットワーク実習)

Language and Communication Studies G

(Practicum in Introduction to Computer Network)



言語・コミュニケーション研究 A（言語学演習）

Language and Communication Studies A

（Seminar in Linguistics）

木村 崇是 KIMURA Takayuki

キーワード：言語学・文法理論・統語論・形態論・言語獲得・外国語学習・第二言語獲得

学問的特徴：母語話者や第二言語学習者がもつ言語知識や外国語学習、言語獲得の仕組みについて考察します。

専門分野：言語学・第二言語獲得 生成文法理論と呼ばれる言語理論に基づいて、母語話者や第二言語学習者がもつ言語知識（特に文法と意味、形態）や言語獲得の仕組みの解明に取り組んでいます。

指導方針：3年次の演習では、実際に体験しながら研究の手順を一から完成（テーマの探し方から先行研究の批判・改善、調査のデザイン、データ分析、発表の仕方）まで学び、自力で卒業研究ができるよう指導します。教員が講義するというより、学生のみなさんが考え、意見を出し合って議論し、手を動かして学んでいくスタイルです。ゼミで行った研究で興味深い結果が出たら、希望者には国際学会をはじめとする公のアカデミックな場での成果発表を促し、指導します。24年度のゼミでは、ヨーロッパ最高レベルの学会にて、厳正な審査を通過し、グループ研究発表を行いました。また、日本第二言語習得学会（年次大会、夏季セミナー、秋季大会）にて、4年生が合計10回の研究発表を行いました。

ゼミ生の研究成果や活動内容は
右のQRコードから見れます



主な執筆論文・文献：

- “Problems and Prospects in L2 Syntax Research within the Generative Framework,” 2025. *Second Language*.
- “Generative Grammar,” *International Encyclopedia of Language and Linguistics*, 2025. Elsevier.
- “UG-as-Guide in Selection and Reassembly of an Uninterpretable Feature in L2 Acquisition of *Wh*-questions: Evidence from Islands and Scope,” 2024. Amsterdam: John Benjamins.
- 『第二言語研究の思考法』執筆担当:第4章, 2023年, 東京:くろしお出版.
- “Feature Selection, Feature Reassembly, and the Role of Universal Grammar: The Acquisition of *Wh*-questions by Japanese and Chinese Learners of English,” *Language Acquisition* 30(1): 101–103, 2023. Routledge.
- “Movement and Islands in Right Node Raising,” *Linguistic Inquiry* 53(3): 608–616, 2022. MIT Press.
- “Explaining the Difficulty with the L2 Acquisition of Scope Interpretation by Speakers of a Scope-Rigid Language,” *Generative SLA in the Age of Minimalism*, 執筆担当:第2章(pp. 41–66), 2022. Amsterdam: John Benjamins.

この分野を知るための基本的な文献紹介：

大津由紀雄ほか『言語研究の世界』研究社 2021.

若林茂則ほか『第二言語習得研究入門』新曜社 2006.

White, Lydia. *Second Language Acquisition and Universal Grammar*. Cambridge University Press, 2003.

卒業論文題目例*：(すべて 24 年度)

「日本語母語話者による英語間接受身文の判断について」

「日本語を母語とする英語学習者による不定詞と動名詞の使い分け—造語を用いた検証—」

「日本語を母語とする英語学習者による英語の物体不可算名詞の誤りとその原因」

「第三言語が第二言語に及ぼす影響—日本語の間接受け身を中心に」

＜履修モデル＞ ※太字は教員の担当科目です。

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目	基礎科目	多文化共生基礎 B(言語学) A (Comparative Study of Culture)	多文化共生基礎 C (文化人類学) H (国際社会論)		
	専門外国語科目	特に指定しない			
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会		民族誌学		
	欧米文化社会	イギリス文化論			
	日本文化社会		日本語論 日本文化論		
	比較文化社会		East/West: A Comparative Perspective		
	言語・コミュニケーション		Learning a Different World through English Phonetics & Phonology Linguistic Typology and Language Communication	言語と認知科学	
	国際協力		国際協力論		
	国際共生		多文化共生教育		
その他	International Career Seminar	International Communication Seminar	交換留学 外国語臨地演習		
卒業研究関連			言語・コミ研究 A(言語学演習) 卒業研究準備演習	卒業研究 I・II	
基盤教育科目	言語表現の世界(多言語コミュニケーション学) A・B				



言語・コミュニケーション研究 B

Language and Communication Studies B

(Seminar in Phonetics and Language Teaching/Learning)

湯澤 伸夫 YUZAWA Nobuo

キーワード：英語・音声学・言語教育・言語学習・プロソディ・変種

学問的特徴：発音記号やイントネーション記号を活用しながら、標準英音と標準米音を含む代表的な英語の音声特徴を、テキスト、論文、音声で学びます。また、英語音声の現状、英語教育の現状、テクノロジーの現状や将来の可能性を踏まえながら、教育や学習への応用も学びます。受講に当たり、「Phonetics and Phonology」を履修しているか、英語音声学に関する知識を有していることが望ましいです。

専門分野：英語音声学・音響音声学 英語音声の特徴を分節音とプロソディの両面から研究しています。地域変種、イギリス英語の最近の発音特徴、イントネーションの形状や知覚、日本人英語学習者の英語発音、小学校英語音声教育の現状などに関心があります。

指導方針：英語で書かれたテキストや論文を読み、発表と討論により授業を進めます。特に標準英音と標準米音の知識があると授業の理解が促進されます。授業では英語を使用します。CEFR (Common European Framework of Reference for Languages)の B2 レベル程度の英語力を持っていると望ましいです。

主な執筆論文・文献：

- ‘Conversion of ToBI to the Tonic Stress Transcription’ (『宇都宮大学国際学部研究論集』第 50 号, 2020 年)
- ‘A Study of Overcoming Differences in the Perception of English Intonation’ (『宇都宮大学国際学部研究論集』第 52 号, 2021 年)
- ‘An Analysis of the Intonation Patterns in Audio Materials Attached to English Textbooks for 5th Graders in Japan’ (宇都宮大学国際学部研究論集第 54 号, 2022 年)
- 「音響音声学と音声分析ソフト」(伊達民和編『英語音声学・音韻論—理論と実践』大阪教育図書, 202 年)

この分野を知るための基本的な文献紹介：

- Melchers, G. and Shaw, P. *World Englishes*. 2nd edition. Hodder Education. 2011.
- Roach, P. *English Phonetics and Phonology: A Practical Course*. 4th edition. Cambridge University Press. 2009.
- Celce-Murcia, M. et al. *Teaching English as a Second or Foreign Language*. 4th edition. Heinle Cengage Learning. 2014.

卒業論文題目例：「日本人英語話者による子音の発音について」（2016年度）

‘English Pronunciation as a Lingua Franca’（2016年度）

‘A study of effects of the Chinese Pinyin on English Pronunciation’（2017年度）

「日本人による4つの英語の母音と日本語の母音の影響について」（2018年度）

「日本人の英語音声における歯摩擦音の知覚」（2021年度）

「日本人の英語聞き取り能力についての調査と分析」（2022年度）

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です。

科目/学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目					
	基礎科目	多文化共生基礎 B（言語学）			
	専門外国語科目	Foreign Language Learning and Communication （湯澤）		Presentation and Discussion （湯澤） Advanced Integrated English A （湯澤） Advanced Integrated English B （湯澤） Academic English Writing	
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会			アジアの歴史と思想	
	欧米文化社会	イギリス文化論			
	日本文化社会			日本語論	
	比較文化社会		Cultures of the English-Speaking World		
	言語・コミュニケーション		Phonetics and Phonology （湯澤） Linguistic Typology and Language Communication		
	国際協力 国際共生			Intercultural Education	
	その他			交換留学 外国語臨地演習	
	卒業研究関連			言語・コミュニケーション研究 B (Seminar in Phonetics and Language Teaching/Learning) （湯澤） 卒業研究準備演習（湯澤）	卒業研究 I・II（湯澤）
基盤教育科目					



言語・コミュニケーション研究 D

(日本語教育と国際協力演習)

Language and Communication Studies D

(Seminar in International Cooperation and Japanese Language Education)

吉田 一彦 YOSHIDA Kazuhiko

キーワード：多言語コミュニケーション・一般言語学・国際ボランティア・成功した外国語学習者の学習法

学問的特徴：経験や価値観が時には驚くほど異なる他者との相互(不)理解の問題に、言語学的・教育学的方法を用いて、自身の見識の狭さを自覚・克服しつつ、接近します。

専門分野：多言語コミュニケーション学 人間が本来的に持つ多言語話者性に着目し、言語コミュニケーションをあるがままに観察し、本質を明らかにします。また、外国語コミュニケーション能力の向上や、海外ボランティア日本語教師の活動を材料として、知見がどう役立てられるか考えます。

指導方針：学生の皆さん自身の多様性（8 か国出身者が集まり、10 言語以上が話される）とそこに生じるインタラクションから、言葉による伝え合いに関わる問いを見つけて答えを出す機会、視点を切り替えつつ他者の理解を試みる機会を設けます。卒論研究の過程で、他者との協力の中で自分が一翼を担うための社会的スキルの獲得を目指す専門指導をします。外国語が身につかないことに挫折感を覚えたり、納得していないという人を、元留学生として励ましたい気持ちが強くあります。

主な執筆論文・文献：

「いわゆる機能語の機能の把握の仕方:語に帰すべきこととそうでないこと」

(峰岸真琴編『言語基礎論の構築』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 2006 年)

「Rethinking Language Learning and Culture Learning」

(International Symposium Report, WoLSEC, Tokyo University of Foreign Studies 2014)

「海外日本語教育学的方法確立に向けて投じる一石 - (0) 研究対象としての学習者の捉えなおし -」

(『海外日本語教育研究』第 2 号 海外日本語教育学会 2016 年)

この分野を知るための基本的な文献紹介：

岡本 真一郎 (2013) 『言語の社会心理学 伝えたいことは伝わるのか』 中公新書

黒田 龍之助 (2004) 『はじめての言語学』 講談社現代新書

塩田 勉 (2001) 『おじさん、語学する』 集英社新書

竹内 理 (2007) 『「達人」の英語学習法—データが語る効果的な外国語習得法とは』 草思社

戸田山 和久 (2011) 『「科学的思考」のレッスン—学校で教えてくれないサイエンス』 NHK 出版新書

卒業論文題目例：「英語スピーキング能力の向上」(2024年度)

「改正入管法と今後の日本社会」(2024年度)

「外国人労働者対象の日本語教育のニーズとその充足」(2024年度)

「タイ語話者は日本語音をどう捉えるか?」(2023年度)

「言語と感情表現—日本語、英語、イバン語における愛情表現の比較と考察—」(2023年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目/学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目	基礎科目	多文化共生基礎 A (Comparative Study of) 多文化共生基礎 B (言語学)	多文化共生基礎 C (文化人類学) 多文化共生基礎 H (国際社会論)		
	専門外国語科目	特に指定しない			
グローバル 専門科目	アジア太平洋文化社会		民族誌学		
	欧米文化社会		Introduction to Latin American Studies		
	日本文化社会		日本語論	Japan's International Relations	
	比較文化社会		East/West: A Comparative Perspective		
	言語・コミュニケーション		Linguistic Typology and Language Communication (吉田) 日本語教育と国際協力(吉田) Learning a Different World through English		
	国際協力 国際共生	ジェンダー論	国際協力論 多文化共生教育		
その他	International Career Seminar(吉田他) 国際キャリア教育(吉田 他)	交換留学 International Communication Seminar	交換留学 国際インターンシ ップ 国際キャリア実習		
卒業研究関連			言語・コミュニケーション 研究 D (日本語教 育と国際協力演習) (吉田) 卒業研究準備演習 (吉田)	卒業研究 I・II (吉田)	
基盤教育科目	言語表現の世界(多言語コ ミュニケーション学)A・B (吉田) Foreign Language Learning and Communication	言語表現の世界(多言語コミュ ニケーション学)A・B (吉田)	言語表現の世界(多 言語コミュニケーション 学)A・B (吉田)		



言語・コミュニケーション研究 F

(対人コミュニケーション論実験)

Language and Communication Studies F

(Experiment in Interpersonal Communication)

中村 真 NAKAMURA Makoto

キーワード：感情・共感性・表情・コミュニケーション・心理学

学問的特徴：心理学的な研究法に基づき、主に対面の対人コミュニケーションについて分析するための調査と実験のやり方について学ぶ。入門的な心理学関係科目と基礎的な情報処理能力を身に付け、統計学を履修しておくことが望ましい。言語学，比較文化論，文化人類学，哲学・思想関連科目を履修し，さらに，興味に応じて特定の分野に集中して履修してみるとよい。

専門分野：感情心理学 感情とコミュニケーションの心理学について研究しています。特に，顔や表情を通じた感情のコミュニケーション，そのようなコミュニケーションにおける表情と文脈の重要性，感情のあらし方の文化差に興味を持っています。また，近年は，法や倫理，国際関係，文学などにおける感情の役割にも関心が広がりつつあり，差別やヘイトスピーチのような排斥的行動の背景にある心理的プロセスと感情の関係について，研究を進めています。

指導方針：3年次の実験においては，研究方法の基礎についてテキストを通して学ぶとともに，実際に調査や実験をやりながら，研究計画，実施，分析，まとめの作業を行います。この作業を通じて，自分自身で研究を実施するための基本を理解してもらいたいと思います。そのために，まずは共通教育で入門的な心理学関係科目を履修して基本的な用語などに慣れておくのと良いでしょう。情報処理の基本的なスキルはデータ処理やレポート作成に必須ですし，統計学は分析のために必要な考え方を学ぶことにつながります。

主な執筆論文・文献：

『顔と心—顔の心理学入門』(吉川・益谷・中村(編) サイエンス社 1993年)

『人はなぜ笑うのか—笑いの精神生理学—』(志水・角辻・中村(著) 講談社 1994年)

「共感と向社会的行動:集団間紛争の問題を通して考える」(『岩波講座・コミュニケーションの認知科学2 共感』第7章 梅田(編) 岩波書店 2014年)

『感情心理学—感情研究の基礎とその展開』(今田・中村・古満(著) 培風館 2018年)

特集『社会的共生と排斥行動:問題の所在』(今田・中村(編) 『エモーション・スタディーズ』第4巻特別号 日本感情心理学会 2019年)

『感情心理学ハンドブック』(内山(監), 中村他(編) 北大路書房 2019年)

この分野を知るための基本的な文献紹介：

- マリアン・ラフランス 『微笑みのたくらみ』 化学同人 2013年
 北村英哉・唐沢穰(編) 『偏見や差別はなぜ起こる?』 ちとせプレス 2018年
 大平英樹(編) 『感情心理学・入門 改訂版』 有斐閣 2024年
 福田正二 『共感 心と心をつなぐ感情コミュニケーション』 へるす出版 2010年

卒業論文題目例：

- 「大学生における SNS 上の行動と自己呈示傾向との関連」 (2020年度)
 「ミラーリングが模倣者への印象形成に及ぼす影響：オンライン対話における事例的検討」 (2020年度)
 「表情表出における笑顔の分類とその社会的役割についての検討」 (2019年度)
 「寄付つき商品の購買意思決定に影響を与える要因についての検討」 (2018年度)
 「接客場面における「良い印象」とは一表情や声が印象形成に与える影響についての検討」 (2017年度)
 “Modern racism: Investigation of aversive racism theory reliability in an Asian-Asian context” (2016年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目	基礎科目	多文化共生コア B(異文化間コミュニケーション)(中村) 多文化共生基礎 A (Comparative Study of Culture)	多文化共生基礎 C(文化人類学)		
	専門外国語科目	特に指定しない			
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会			民族誌学	
	欧米文化社会			世界の歴史と文化	
	日本文化社会		地域社会論		
	比較文化社会		哲学概論 表象文化論 社会調査法入門		
	言語・コミュニケーション		対人コミュニケーション論(中村)	言語と認知科学	
	国際協力		Intercultural Education		
	国際共生	ジェンダー論	多文化共生教育		
その他	国際キャリア教育 情報と倫理	統計学 International Career Seminar	交換留学 外国語臨地演習	国際キャリア実習	
卒業研究関連			言語・コミュニケーション研究 F(対人コミュニケーション論実験)(中村) 卒業研究準備演習(中村)	卒業研究 I・II(中村)	
基盤教育科目	心理学関係科目				



言語・コミュニケーション研究 G（情報ネットワーク実習）

Language and Communication Studies G (Practicum in Introduction to Computer Network)

倪 永茂 NI Yongmao

キーワード：情報ネットワーク・コミュニケーション・SNS・情報化社会

学問的特徴：インターネット等の情報ネットワークは、その構築・管理に係る情報工学的学問と、社会のインフラや国民の日常生活に係る社会学的学問という幾つもの側面があります。国際学部の学部生としては、後者である社会学的アプローチが適切かと思われませんが、そのために情報ネットワークに関する知識を身につけないといけません。その上に、自身の興味に応じて、コミュニケーション論、社会学、行政学、経済学等の関連科目を履修することが望ましいです。

専門分野：情報学、情報工学 311 東日本大震災で見られたように、情報ネットワークが孤立した地域同士、個人同士、個人と地域を結びつく大変重要な存在になった。情報ネットワークに対する理論的検証と、情報セキュリティ等の社会的問題を中心に研究を行なっている。とくに、情報ネットワークによって作り出されたバーチャル空間の可能性と問題点について深い興味をもっています。

指導方針：3年次の実習において、それまでに蓄積された情報ネットワークに対する基礎知識をフル動員して情報ネットワークの特徴を一つ一つ確認していきます。さらに、サイバー空間における情報の整理、情報の発信・共有に必要な知識と技術を学習し、身につけてもらいます。その後の卒業研究準備演習において、卒論のテーマを決め、先行研究の調べ方、モデルの立て方、論述展開の仕方、卒論の書き方等について習得します。

主な執筆論文・文献：

『Windows2000 環境で使う情報リテラシー』サイエンス社、2000

「情報倫理教育に関する考察」(『宇都宮大学国際学部研究論集』第45号、2018)

「外国人観光客向け多言語災害情報サービスの現状と課題：台風15号、19号を中心に」(『宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター年報』第12号、2019)

「情報セキュリティポリシーの転換—テレワークを可能にするために—」(『宇都宮大学国際学部研究論集』第53号、2022)

「C2C マーケット変容に見る IT 社会の進展—ヤフオク、メルカリを中心に—」(『宇都宮大学国際学部研究論集』第54号、2022)

この分野を知るための基本的な文献紹介：

伊東 乾 (2006) 『絶対情報学』講談社

Robert M. Baird (2000) 『Cyberethics: Social & Moral Issues in the Computer Age』 Prometheus
 西井美鷹・神崎洋治 (2008) 『体系的に学ぶインターネットセキュリティ』 日経 BP ソフトプレス

- 卒業論文題目例：** 「オンライン教育のネットワーク要件と課題」(24年度)
 「メディア形態の変遷が個人のリスクコントロールに与えた影響」(24年度)
 「大学生の自主学習における AI の活用」(24年度)
 「行政サービスにおける AI の活用」(23年度)
 「SHEIN とユニクロとの比較研究— SNS マーケティングを中心に」(23年度)
 「災害時の情報収集について—東日本大震災から考える」(22年度)
 「キャッシュレス社会の進展と現状分析—PayPay を事例に」(22年度)
 「観光業における新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響と今後の課題
 —コロナ禍に対する取り組みと持続可能な観光へ向けて—」(21年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目/学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目 基礎科目		多文化共生コア B (異文化間コミュニケーション) 多文化共生基礎 G (国際経済論) 多文化共生基礎 H (国際社会論)			
専門外国語科目		特に指定しない			
グローバル 専門科目	アジア太平洋文化社会		中国文化論		
	欧米文化社会		アメリカの経済と社会		
	言語・コミュニケーション		情報ネットワーク概 論 (倪)		
	国際協力		国際協力論		
	国際共生		多文化共生教育		
国際キャリア教育科目			情報と倫理 (倪)		
卒業研究関連				言語・コミュニケーション 研究 G(情報ネットワー ク実習)(倪) 卒業研究準備演習 (倪)	卒業研究 I・ II (倪)
基盤教育科目		人間社会と情報の社会 A(教養科目・自然科学 系科目・倪)			

6 国際協力・共生系 ①国際協力研究グループ/International Cooperation Studies

○国際協力研究 A

(国際協力論演習)

International Cooperation Studies A

(Seminar in International Cooperation)

○国際協力研究 B

(移民と多文化教育演習)

International Cooperation Studies B

(Seminar in Multicultural Education and Immigration)

○国際協力研究 C

(環境と国際協力演習)

International Cooperation Studies C

(Seminar in Environment and International Cooperation)

○国際協力研究 E

(途上国経済発展論演習)

International Cooperation Studies E

(Seminar in Development Studies)

○国際協力研究 F

(グローバル教育論演習)

International Cooperation Studies F

(Seminar in Global Education)

○国際協力研究 G

(グローバルガバナンス演習)

International Cooperation Studies G

(Seminar in Global Governance)



国際協力研究 A （国際協力論演習）

International Cooperation Studies A

(Seminar in International Cooperation)

栗原 俊輔 KURIHARA Shunsuke

キーワード：国際協力、国際開発、市民社会、参加型開発手法、ファシリテーション

学問的特徴：国際協力は横断的分野であり、様々な関係者がかかわるため、その専門性も多岐にわたる。また、国際協力、国際開発、開発援助など、類似の言葉で語られることも多いが、その指すところはそれぞれ違い、その全貌は極めて曖昧である。貧困削減などの伝統的なアプローチだけでなく、災害や紛争、消費財を通じた先進国と途上国の格差等、21世紀に入り、その文脈の複雑性は増している。制度としての国際協力だけでなく、市民社会と国際協力のかかわりとその多様性について研究する。

専門分野：国境を越えた問題、先進国と途上国間での様々な格差や不平等および市民のかかわりについて研究。現在はスリランカの紅茶（セイロンティー）を通じたスリランカ側紅茶農園コミュニティと世界の消費者との平等なつながりと市民社会の役割を研究。

指導方針：3年次の演習では、国際協力を制度と実践の観点から検証し、その概観を把握・理解した上で具体的な問題や地域などを学生それぞれが選択し追っていく。政府開発援助（ODA）だけでなく、NGOや国連機関、民間企業等様々なアクターの取り組みを総合的に俯瞰したうえで、最も周辺化された人びとにとっての真の支援とは何か、誰が支援すべきか、研究していく。

主な執筆論文・文献：

「ぼくは6歳、紅茶プランテーションで生まれて。」(合同出版社 2020年)

「街の玄関としての駅の付加価値 — 宇都宮おもてなし隊の活動と可能性 —」(宇都宮大学国際学部研究論集第50号 2020年)

「Just Unchanged or Worse? - Household livelihood of Estate Tamils in the tea plantations of the Upcountry Sri Lanka-」(宇都宮大学国際学部研究論集第44号 2017年)

「Citizen For Labor - Policy and practice for structural poverty over Estate Tamils in the tea plantation community of Sri Lanka」 (Upcountry Research and Documentation Center, Sri Lanka, March 2014)

この分野を知るための基本的な文献紹介：

アマルティア・セン（東郷えりか訳）『人間の安全保障』 集英社新書 2006年

植村邦彦『市民社会とは何か』 平凡社新書 2010年

功刀達朗・野村彰男編著『社会的責任の時代』 東信堂 2008年

- 卒業論文題目例：**「3.11 から見えた教育支援ニーズの変遷 -山形県の自主避難者を例に-」（16年度）
 「台湾における先住民族への認識～野球が果たす役割とこれから～」 （17年度）
 「フィリピンの貧困削減におけるマイクロファイナンスの有効性と成立条件」 （18年度）
 「カンボジアにおける学校教育支援の実際と課題」 （19年度）
 「難民のエンパワーメントに向けた難民支援活動の役割 - ウガンダの難民開発援助における人間開発の課題」 （2020年度）
 「子どもの貧困が放課後活動に与える影響と支援の考察」 （2022年度）

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目					
	基礎科目	多文化共生基礎E (国際法) 多文化共生基礎F (国際政治論)			
専門外国語科目					
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会			特に指定しない	
	欧米文化社会			特に指定しない	
	日本文化社会		特に指定しない		
	比較文化社会		特に指定しない		
	言語・コミュニケーション		特に指定しない		
	国際協力		国際協力論 (栗原)		
	国際共生		国際機構論 国際人権論		
	その他	国際キャリア教育	Global Management: Asia and Development (栗原) International Career Seminar (栗原)	海外フィールドワーク演習Ⅰ・Ⅱ (栗原) 国際キャリア実習 (栗原)	
	卒業研究関連			国際協力研究 A(国際協力論演習)(栗原) 卒業研究準備演習 (栗原)	卒業研究Ⅰ・Ⅱ(栗原)
基盤教育科目		基盤キャリア実習 B(課題解決型フィールドワーク)			



国際協力研究 B (移民と多文化教育演習)

International Cooperation Studies B (Seminar in Multicultural Education and Immigration)

チー ジエ
戚 傑 Jie Qi

キーワード：グローバリゼーション, 学校教育, 多文化教育, コミュニケーション

学問的特徴：異なる民族や文化背景を持つ人々が共に暮らす社会のあり方と、その実現を確固たるものにするための、教育理論や教育の有り方について探求します。

専門分野：教育社会学 外国語教育 ポスト構造主義・ポストコロニアル理論を用いて、学校教育・多文化教育・言語教育に関する研究・分析を行っています。

指導方針：3年次の演習では、思考・研究能力を養う訓練を重視します。固定観念を持たずに、積極的に問題提起することに心懸け、提起した問題については徹底した理論的思考と実践的探求を繰り返すことに重点が置かれます。4年次では、調査方法や研究手法等に関する指導と論文作成の技法に関する指導が中心となります。本当に興味のあるテーマを選び、全力で取り組んでほしいと思います。

主な執筆論文・文献：

- ・『グローバル化と外国人児童生徒教育』（共著，一芸社，2022年）。
- ・『Epistemic Colonialism and the Transfer of Curriculum Knowledge across Borders: Applying A Historical Lens to Contest Unilateral Logics』（共著，Routledge，2022年）。
- ・『A Political Sociology of Educational Knowledge: Studies of Exclusions and Difference』（共著，Routledge，2019年）。
- ・『共生のための言語教育と多文化教育：日中同形語の語義転用からみる日中間の発想の相違点と類似点』（単著，白帝社 2016年）。
- ・『Systems of Reason and the Politics of Schooling: School Reform and Sciences of Education in the Tradition of Thomas S. Popkewitz (Routledge International Studies in the Philosophy of Education)』（共著，Routledge，2014年）。
- ・「The Discursive Construction of the Problem Child in Japan」『Proceeding of the 2ed Childhoods Collectives Meeting: Understanding Childhoods through Literacy Development: Living and Learning in Global Era』, pp.82-91 (単著，2012年)。
- ・「Diversity and multiculturalism in Japan: what is called into question?」『Educational Research for Policy and Practice』 10 (2), pp.105-114 (単著，2011年)。
- ・『New Curriculum History』（共著，Sense Publishers，2009年）。
- ・『The Child in the World/the World in the Child: Education and the Configuration of a Universal, Modern, and Globalized Childhood (Critical Cultural Studies of Childhood)』（共著，Palgrave Macmillan，2006年）。
- ・『Inventing the Modern Self and John Dewey: Modernities and the Traveling of Pragmatism in Education』（共著，Palgrave Macmillan，2005年）。

この分野を知るための基本的な文献紹介：

- ・Ball, S. (2019). *Foucault and Education: Putting Theory to Work (Education and Social Theory)*. London & New York: Routledge.

- ・『共生のための言語教育と多文化教育：日中同形語の語義転用からみる日中間の発想の相違点と類似点』（単著，白帝社 2016年）。
- ・山田泉（2013）「多文化教育」法政大学出版局。
- ・小坂井敏晶（2002）『民族という虚構』東京大学出版会

卒業論文題目例：

- マイノリティへの教育支援について
- アイヌ民族と先住民族教育に関する一考察
- 日本語教育の現状と外国語教授法について
- キャリア教育に関する日本・アメリカ・ドイツの比較研究
- 「健常者」は存在するか：「障害者」と「健常者」に関する言説的研究
- 近代性の危機と自然権：レオ・シュトラウスによるホッブズ、ロックの比較を通じて
- 韓国のコーヒー文化に関する一考察

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目	基礎科目	多文化共生基礎 F (国際政治論) 多文化共生基礎 G (国際経済論)			
	専門外国語科目	特に指定しない			
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会		近現代中国論 アジアの歴史と思想	東南アジア論 韓国文化論	
	欧米文化社会		ヨーロッパ思想文化論		
	日本文化社会		日本語論	Japan's International Relations	
	比較文化社会	国際事象の実証分析		表象文化論 Cultures of the English-Speaking World	
	言語・コミュニケーション		Phonetics and Phonology	対人コミュニケーション論	
	国際協力	グローバル化と外国人児童生徒教育(威他)	移民と多文化教育(威) アフリカ論	環境と国際協力	
	国際共生				
	卒業研究関連			国際協力研究 B (移民と多文化教育演習)(威) 卒業研究準備演習(威)	卒業研究 I・II (威)
	基盤教育科目		Japanese Communication Arts (威)		



国際協力研究 C (環境と国際協力演習)
International Cooperation Studies C
(Seminar in Environment and International Cooperation)

高橋若菜 TAKAHASHI Wakana

キーワード：地球環境管理・ガバナンス・市民社会・持続可能な発展・環境言説・循環型社会・原発震災

学問的特徴：環境問題は、本質的には政治問題であると捉え、座学だけでなくフィールドスタディ、社会との共創（アクションリサーチ）を通じて、持続可能な社会を実現する政治のあり方を探求しています。環境問題の激甚化には、問題の過小評価、情報非開示など共通の構造があります。一方、多様性を重んじ、生活者、被害者、弱者の視点に寄り添うことは、幸福度を向上させ持続可能な社会形成にも貢献することを、これまでの歴史は示しています。被害の可視化は、持続可能な発展に向けた出発点です。

専門分野：環境政治学（地球環境政治・比較環境政治） ①循環型社会／脱炭素社会形成に関する欧米の取組みについての比較政治的考察-日本とスウェーデンを中心として、②欧州・北米・東アジアの越境大気汚染をめぐる比較政治、③原発震災被害の記録継承。

指導方針：前期：①環境政治に関する専門書を輪読します。②NPO等と協力しながら、公開オンラインSDGs映画上映会開催、里山保全・環境教育等への実践的参加・参与型観察などを実施します。
後期（卒業研究準備演習）：社会科学の研究デザインについての専門書、および、複数の事例研究論文を並行して読み、論理的思考力や発想力を鍛え、卒業研究の立案へとつなげます。いずれも座学に加えて、フィールド体験を重ねることも大切にしています。

主な執筆論文・文献：『奪われた暮らしー原発被害の検証と共感共苦』^{コンパッション}（編著）、日本経済評論社、2022。
「スウェーデンにおける Sustainability と well-being の統合」(共著)環境情報科学 53 (3), 48-54, 2024.

“Citizen participation in the governance of nature-based solutions” (co-authored with Bernadett Kiss et al.) (2022)
Environmental Policy and Governance, 32: :247–272.

“Economic rationalism or administrative rationalism? Curbside collection systems in Sweden and Japan,” *Journal of Cleaner Production*. 12pages, 2020.

「脱炭素経済に向けた EU の挑戦と課題：マルチレベルガバナンスを通じたエコロジー的近代化への歩み」『国際問題』692、30–41 頁、2020.

「ごみエネルギー利用からみる政策統合のためのガバナンス上の課題:ー日本とスウェーデンの事例対照からー」
『環境経済・政策研究』11(2)、95-100 頁、2018.

『越境大気汚染の比較政治学ー欧州、北米、東アジア』、千倉書房、2017.

『原発避難と創発的支援ー活かされた中越の災害対応経験』(編著)、本の泉社、2016.

この分野を知るための基本的な文献紹介：

斎藤幸平(2020)『人新世の資本論』集英社

Dixson-Declève,他(2022)『Earth for All 万人のための地球『成長の限界』から 50 年ローマクラブ新レポート』丸善出版

卒業論文題目例：

- 「なぜ日本で地中熱利用が広がらないのか」(2023年度)
- 「欧州・日本・鳥取県の断熱基準の差異をめぐる認識論的考察」(2023年度)
- 「自治体新電力の発展拡大における障壁と課題」(2023年度)
- 「市街地の緑化の衰退と発展」(2023年度)
- 「日本のプラスチック発生抑制への取組みの課題と可能性」(2023年度)
- 「プラスチックごみ削減政策の意思決定プロセスにおける仕組みのあり方とは 一国と亀岡市の事例における言説分析」(2022年度)
- 「顔の見える」地域循環共生圏はどのように形成されるのか-栃木県の3つの取組を事例として-」(2021年度)
- 「スリランカの廃棄物処理場内における労働者の3R活動はなぜ可能になったのか」(2018年度)
- 「ドイツにおける市民の環境活動の多様性」(2016年度)
- 「福島原発事故による避難指示解除を問う—理性的制御モデルを用いたアクター分析を元に」(2016年度)
- 「緑のラディカリズムの変遷と可能性～ディープ・エコロジーと緑のライフスタイルを比較して」(2015年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目/学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目					
	基礎科目				
	専門外国語科目	特に指定しません。			
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会		特に指定しません。関心に応じ、存分に受講してください。		
	欧米文化社会		特に指定しません。関心に応じ、存分に受講してください。		
	日本文化社会				
	比較文化社会				
	言語・コミュニケーション		特に指定しません。関心に応じ、存分に受講してください。		
	国際協力		環境と国際協力 (高橋)		
	国際共生	ジェンダー論	地球環境政策論 (高橋)、他		
	その他				
	卒業研究関連			国際協力研究C(環境と国際協力演習) (高橋) 卒業研究準備演習 (高橋)	卒業研究 I・II (高橋)
基盤教育科目		SDGs 入門 環境と国際社会(社会科学系科目・高橋)			



国際協力研究 E (アフリカ論演習)

International Cooperation Studies E

(Seminar in African Studies)

阪本 公美子 SAKAMOTO Kumiko

キーワード：アフリカ・内発的発展・豊かさ・食・在来知・健康・国際開発・貧困・経済格差

学問的特徴：アフリカにおける対象地域の理解のもと、先行研究を踏まえ、各自が興味を持つテーマについて考察します。状況の多角的理解と問題意識の明確化のためにも、関連科目の幅広い履修が望ましい。

専門分野：アフリカを対象とする地域研究。しばしば問題とされるアフリカの貧困や発展のみならず、人びとの生活の背景となる文化や社会構造、在来知に興味を持ち、主にタンザニアの農村において現地調査を行っています。

指導方針：3年次の演習では、それぞれの関心のある地域や問題意識に基づき定めたテーマについて掘り下げた文献研究をはじめ、論文や資料収集、研究方法、論理的思考、論文作成技術などについて学びます。4年次には、文献研究、テーマによってインタビューやアンケート調査等を実施し、卒業論文を執筆し、研究室で議論と推敲を重ねて論文を提出します。提出後には、卒論発表会と論集作成を行います。

2年次までに、授業内外における幅広い学習や体験を通じて、それぞれの問題意識を磨いておいて下さい。日本語だけでなく外国語の論文や資料も読みこなせることによって世界が広がりますので、1~2年次から十分に語学も鍛えて下さい。

主な執筆論文・文献：

「タンザニア3地域における野生食物摂取と成人の主観的健康の関係」

(阪本公美子他『国際開発研究』第30巻、第2号、2021年 pp.93-112)

「相互扶助は子どもの生存に寄与するか」(『アフリカ研究』第92号、2018年 pp.1-17)

「タンザニア南東部「母系制社会」の母系と父系に関する一考察」(『アフリカ研究』第78号 2011年 pp.1-23)

「アフリカ・モラル・エコノミーに基づく内発的発展の可能性と課題」(『アフリカ研究』第70号 2007年 pp.133-141)

Changing Dietary Patterns, Indigenous Foods, and Wild Foods (Springer 2023)

Factors Influencing Child Survival in Tanzania (Springer 2020)

Social Development, Culture, and Participation (2009, 2021年)『開発と文化における民衆参加』(春風社 2020年)

「東アフリカの内発的発展」(西川潤他編『社会科学を再構築する』明石書店 2007年 pp.220-234)

『ニョタのふしぎな音楽〜タンザニアの星空のもとで〜』(阪本公美子他 三恵社 2021年)

その他「宇都宮大学国際学部阪本公美子」HP (<https://sakamoto-kumiko.hatenadiary.org/>) 参照

この分野を知るための基本的な文献紹介：

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房 2021年

重田康博・真崎克彦・阪本公美子編著『SDGs時代のグローバル開発協力論』明石書店 2019年

大林稔・西川潤・阪本公美子編著『新生アフリカの内発的発展—住民自立と支援』昭和堂 2014年

日本アフリカ学会編『アフリカ学事典』昭和堂 2014年

西川潤『人間のための経済学』岩波書店 2000年

卒業論文題目例：

- 「アフリカにおける貨幣・市場の浸透と相互扶助—ガーナに焦点を当てて—」(24年度)
- 「ガーナにおける自然の認識と利用—ダゴンバの人びとに焦点を当てて—」(24年度)
- 「近代化における内発的発展に関する考察—富岡製糸場とイギリス産業革命における基本的必要・人間関係を事例に—」(24年度)
- 「小笠原諸島父島における小農に関する一考察」(23年度優秀論文)
- 「インドにおける性的な人身取引の実態と被害者支援のあり方」(22年度優秀論文)
- 「アジア・アフリカの「権威主義国家」を母国に持つ国民の視点から見た政治体制」(21年度優秀論文)
- 「現代における生活環境病を取り巻く社会認識と課題—化学物質過敏症を事例に—」(18年度優秀論文)
- 「東日本大震災における震災遺構に関する一考察—負の遺産やダークツーリズムの視点から—」(17年度優秀論文)
- “The Role of Peer Support for International Students at Universities in Japan” (14年度最優秀論文)
- 「FGM/女子割礼を取り巻く人間関係と廃絶アプローチの可能性」(13年度同窓会賞受賞)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目/学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目		多文化共生基礎 C (文化人類学) G (国際経済論) H (国際社会論)			
基礎科目					
専門外国語科目		特に指定しないが、英語の他、フランス語、スペイン語などの履修が推奨される。			
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会		中東地域研究 民族誌学		
	欧米文化社会		フランス文化論 イギリス文化論		
	地域研究系		地域研究専門研究 (海外体験) I, II		
	日本文化社会		地域社会論		
	異文化理解・コミュニケーション系 比較文化社会	国際事象の実証分析	異文化理解・コミュニケーション(海外体験) I, II, 社会調査法入門 哲学概論 表象文化論 Cultures of English-Speaking world		
	言語・コミュニケーション		対人コミュニケーション論		
国際協力・共生系	国際協力		アフリカ論 (阪本) 途上国経済発展論 (阪本) 環境と国際協力 国際協力論 International humanitarian law in theory and practice, Theory of global governance 国際協力・共生専門 (海外体験) I, II		
国際共生	ジェンダー論 ミクロ経済学		地球環境政策論 マクロ経済学 Global political economics International protection of human rights		
その他	国際キャリア教育 International career seminar International communication seminar		統計学 国際キャリア実習 交換留学	外国語臨地演習 交換留学 (卒業研究準備演習や卒業研究 I について遠隔履修奨励)	
卒業研究関連				国際協力研究 E (アフリカ論演習)・卒業研究準備演習(阪本)	卒業研究 I・II (阪本)
基盤教育科目	異文化理解の世界 A (アフリカ学入門)(阪本), C, SDGs 入門	3. 11 と学問の不確かさ			



国際協力研究 G(グローバルガバナンス演習)

International Cooperation Studies G (Seminar in Global Governance)

アルジョン スギット ARJON Sugit

キーワード：市民社会・東南アジア・民主主義・紛争と平和研究・グローバルガバナンス・セキュリティ研究

学問的特徴：このセミナーでは、学生にグローバルガバナンスの構造、慣行、規範、および関係者を紹介します。国際安全保障ガバナンス、グローバル・ヘルス・ガバナンス、グローバル経済ガバナンス、グローバル環境ガバナンス、グローバル・フード・ガバナンスなど、グローバル・ガバナンスの実践における問題について議論します。

専門分野：これはグローバルガバナンスのセミナーですが、私のこれまでの研究 平和と紛争の研究に集中する傾向がありました。私の研究は、地域の自治、汚職事件、軍事的影響、国家の政治的統合の影響など、この地域の政治的ダイナミクスを見ることによって、紛争後の分析に関する学術的議論を共有することを目的としています。私の現在の研究のほとんどは、東南アジア、特にインドネシアにおける紛争後の地域、民主化、国家暴力、グローバルガバナンスと市民社会、安全保障、政治王朝、民軍関係に適用されます。

指導方針：3年次の演習では、毎週、グローバルガバナンスとその問題に関連する文献について議論します。学生は、定期的にクラスの前で自分のアイデアを発表することが期待されています。コースの最後には、各参加者の関心に沿ったテーマで研究とプレゼンテーションが行われます。参加者は、学習と研究に積極的に取り組むことが期待されています。セミナーは英語で行われます。

主な執筆論文・文献 (最新のもの)：

- アルジョン, スギット. (2024). “民主主義の再構築——東南アジアの紛争後社会における挑戦” in 宇都宮大学国際学部 30 周年記念学術書『国際 学の理論と方法』ナカニシヤ出版, pp. 165-182.
- Arjon, S. (2024). “The candidate’s dilemma: anti-corruptionism and money politics in Indonesian election campaigns”, by Elisabeth Kramer *The Journal of Asian Studies*, Vol. 83 No. 2, May 2024.

この分野を知るための基本的な文献紹介：

- Baylis, John., and Smith, Steve. “The Globalization of World Politics: An Introduction to International Relations”, Oxford University Press, 2004.
- Caballero-Anthony, M. “An Introduction to Non-Traditional Security Studies”. SAGE Publications, 2016.

- Weiss, Thomas., and Wilkinson, Rorden. “Global Governance Futures.” Routledge, 2021

卒業論文題目例：

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目	基礎科目	多文化共生コア C Global Civil Society	グローバル実践力基礎演習 II		
	専門外国語科目	Advanced English I	Academic English Writing	Directed English Writing	
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会				
	欧米文化社会				
	日本文化社会				
	比較文化社会				
	言語・コミュニケーション				
	国際協力		Theory of Global Governance		
	国際共生				
	その他		International Communication Seminar International Career Seminar		
	卒業研究関連			卒業研究準備演習	卒業研究 I・II (アルジョン)
基盤教育科目					

7 国際協力・共生系 ②国際共生研究グループ/International Community Studies

○国際共生研究 A

(人の国際移動演習)

International Community Studies A

(Seminar in International Migration)

○国際共生研究 B

(多文化共生教育演習)

International Community Studies B

(Seminar in Education for Multicultural Society)

○国際共生研究 C

(国際関係論演習)

International Community Studies C

(Seminar in International Relations)

○国際共生研究 D

(国際法演習)

Seminar in International Community Studies D

(Seminar in International Law)

○国際共生研究 E

(国際政治論演習)

International Community Studies E

(Seminar in International Politics)

○国際共生研究 F

(国際経済論演習)

International Community Studies F

(Seminar in International Economy)

○国際共生研究 G

(Disaster Studies 演習)

Seminar in International Community Studies G

(Seminar in Disaster Studies)



国際共生研究 A（人の国際移動演習）

International Community Studies A (Seminar in International Migration)

申 惠媛 SHIN Hyewon

キーワード：社会学、移民、エスニック・マイノリティ、日本社会の多文化・多国籍化、地域社会

学問的特徴：社会学とは、「異なる人間たちが、限られた空間のなかでともに住み合っていくことを可能にする知恵あるいは仕掛けの総体」（長谷川・浜・藤村・町村 2019: 2）としての社会をめぐる学問です。グローバル化が進展し人の国際移動がますます活発化するなか、移民やエスニック・マイノリティとともに住み合い織りなされていく社会関係を探ることは、より複雑で、重要な課題となっています。広い視野をもちながら、具体的な事例に関心を向ける姿勢が求められます。

専門分野：多文化・多国籍化する日本社会を主なフィールドに、特定の地域において移民、エスニック・マイノリティがどのようなコミュニティやネットワークを形成し、そのことが既存の社会関係にどのような変化をもたらすかについて多角的に分析してきました。中でも、観光地化が進展したエスニック・タウンをはじめとする都市のエスニック空間、エスニック・ビジネス等を事例に研究しています。

指導方針：3年次の演習では、基本となるような文献を輪読し、「多文化共生基礎H」や「人の国際移動」で修得した知識・視座に関する理解を深めます。その上で、各自の関心に沿ったテーマを決め、関連文献の探索、調査、分析、発表に取り組みます。主体的に問いを深めていくと同時に、それをすでになされてきた諸研究の上に位置づけることが重要です。そのための方法についても一緒に学んでいきます。

主な執筆論文・文献：

- 申惠媛, 2024,『エスニック空間の社会学——新大久保の成立・展開に見る地域社会の再編』新曜社.
- 申惠媛, 2021,「エスニックな観光地「新大久保」の形成条件——エスニック・コミュニティと観光地化の連続性に関する考察」『年報社会学論集』(34): 131-142.
- 申惠媛, 2019,「「開かれた」地域社会の重層性——エスニックな観光地化する「新大久保」の事例から」『アメリカ太平洋研究』(19): 37-48.
- 申惠媛, 2017,「多層化する結節点としての「高田馬場」——「ミャンマー・コミュニティ」調査から」『関連社会科学』(26): 73-78.
- 申惠媛, 2016,「「新大久保」の誕生——雑誌が見た地域の変容」『年報社会学論集』(29): 44-55.

この分野を知るための基本的な文献紹介：

- Castles, S. and Miller, M. J., 1993, *The Age of Migration: International Population Movements in the Modern World*, The Macmillan Press Ltd. = 1996, 関根政美・関根薫訳『国際移民の時代』名古屋大学出版会.

- 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志, 2019, 『新版・社会学』有斐閣.
- 永吉希久子, 2020, 『移民と日本社会——データで読み解く実態と将来像』中央公論新社.

卒業論文題目例：

- 「ハイブリッド志向型」エスニック・アイデンティティの形成過程における影響要因—栃木県在住の日系ブラジル人移民第 1.5 世代の事例から—
- 社会的排除／包摂の観点から見る多文化共生関連施策—共生社会の実現可能性の検討—
- 外国人留学生が日本で就職活動で抱える苦悩と大学における支援—留学生の国家選択と企業選択に焦点を当てて—
- 官民協働で多文化共生施策を展開する地域社会における民間団体の役割とは—川崎市社会福祉法人青丘社の事例から—
- 長期的な交流を通じた地域の多文化共生—東京都新宿区大久保地域の事例から—

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目	基礎科目	多文化共生基礎 A (Comparative Study of Culture) F (国際政治論)	多文化共生基礎 H (国際社会論) C (文化人類学)		
	専門外国語科目	〈特に指定しません。関心に沿って履修してください〉			
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会	〈特に指定しません。関心に沿って履修してください〉			
	欧米文化社会	〈特に指定しません。関心に沿って履修してください〉			
	日本文化社会		地域社会論		
	比較文化社会		社会調査法入門		
	言語・コミュニケーション	〈特に指定しません。関心に沿って履修してください〉			
	国際協力		移民と多文化教育		
	国際共生		人の国際移動 多文化共生教育		
その他	国際キャリア教育	International Career Seminar	交換留学 外国語臨地演習		
卒業研究関連			国際共生研究 A(人の国際移動演習) 卒業研究準備演習	卒業研究 I・II	
基盤教育科目	初習外国語 (教員の担当科目は韓国朝鮮語基礎 I・II) * 関心に沿って履修してください	社会学領域の科目等、各自の関心に沿って履修してください			



国際共生研究 B （多文化共生教育演習）

International Community Studies B
(Seminar in Education for Multicultural Society)

立花 有希 TACHIBANA Yuki

キーワード：外国人児童生徒教育、異文化間教育、母語・第二言語・継承語、教育機会の向上

学問的特徴：多文化共生教育とは、外国につながるのある子どもに関わる教育の理論と実践を指す語として日本で用いられている表現である。本演習では、多文化共生教育の課題と展望について、国内外の関連文献を参照しながら検討、考察する。言語や文化を人間の発達や社会的関係の文脈で理解することが求められるので、さまざまな授業を通してその素地を養っておいてほしい。

専門分野：比較教育学、異文化間教育—ドイツの学校における異文化間教育について研究してきました。特に、移民背景を持つ子どもへの言語教育に関して、理論、政策、実践の各次元からアプローチしています。

指導方針：3年次の演習では、異文化間教育に関する国内外の文献を読み進めます。同時に、各自の興味・関心を発展させて個別のテーマを設定し、関連する文献・資料を収集、分析することを通じて、自身の課題意識を明確にすると共に、学術的な表現方法について実践を通じた学習を行います。自ら問いを立て、考察し、論述するのは確かに大変な作業ですが、知的探究心と知的発見の喜びとが相乗的に高まっていく感覚をぜひ経験してほしいと願っています。

主な執筆論文・文献：

「ドイツ・ヘッセン州における移民児童生徒に対する二言語教育の展開と課題」『比較教育学研究』 第38号、2009年2月、47～66頁

「ドイツにおける幼小連携の取組に関する一考察—ヘッセン州教育計画（BEP）を中心として—」『関東教育学会紀要』第43号、2016年10月、13～23頁

「ドイツの就学前教育における移民の子どもの言語発達の評価と支援—ヘッセン州における取組を中心として—」『異文化間教育』第45号、2017年3月

この分野を知るための基本的な文献紹介：

園山大祐編（2016）『岐路に立つ移民教育 社会的包摂への挑戦』ナカニシヤ出版

宮島喬（2014）『外国人の子どもの教育』東京大学出版会

江原裕美編著（2011）『国際移動と教育—東アジアと欧米諸国の国際移民をめぐる現状と課題』明石書店

- 卒業論文題目例：「オーストラリアの反レイシズムに関する取り組み—日本の多文化教育構想の上での手掛かりとして」（16年度）
「ドイツにおける難民受け入れをめぐる理想と現実」（17年度）
「ドイツの前期中等教育～総合制学校から見た学校制度改革の歩みと近年の動き～」(18年度)
「日本における母語教育の実際と可能性」（19年度）

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目			多文化共生基礎 H (国際社会論)		
基礎科目					
専門外国語科目		特に指定しない			
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会			アジアの歴史と思想	
	欧米文化社会		ヨーロッパ思想文化論		
	日本文化社会		現代日本社会論		
	比較文化社会		哲学概論		
	言語・コミュニケーション			言語と認知科学	
	国際協力			グローバル化と外国人児童生徒教育	
	国際共生		多文化共生教育(立花)		
その他				交換留学 外国語臨地演習	
卒業研究関連				国際共生研究 B (多文化共生教育演習)(立花) 卒業研究準備演習(立花)	卒業研究 I・II (立花)
基盤教育科目		多文化共生論入門(教養科目・社会科学系科目)(立花)			



国際共生研究 C（国際関係論演習）
International Community Studies C
(Seminar in International Relations)

清水 奈名子 SHIMIZU Nanako

キーワード：戦争・平和・安全保障・国際機構・人間の安全保障・原発震災

学問的特徴：法学と政治学を中心に、国際関係の構造や制度を考察します。各学生の興味に応じて、法学と政治学の分野に限定せずに、地域研究や思想、歴史に関わる科目も履修してください。

専門分野：国際機構論 主に国際連合の安全保障体制について研究しています。国際関係を考察する際に、国際連合のような制度に注目して、紛争の予防や解決、紛争後社会の再建の問題を考察しています。2011年の原発震災後は、人間の安全保障と原発事故被害の関係についても研究を続けてきました。

指導方針：3年次の演習において、基本的な学術論文をしっかり読み込む作業を重視します。この作業を通して、学術論文とはどのような形式と水準で書くものなのかを理解してほしいからです。上記二つの分野以外にも、国際法や国際政治の知識を前提に進めますので、2年次までにこれらに関連する科目を履修しておいてください。また英語文献や資料も使用しますので、英語の読解力を鍛えておきましょう。

主な執筆論文・文献：

『冷戦後の国連安全保障体制と文民の保護—多主体間主義による規範的秩序の模索—』日本経済評論社, 2011
「性的搾取・虐待の被害者救済と防止—国連平和活動が関わる事例を中心として」(清水奈名子他著『平和構築と個人の権利—救済の国際法試論』広島大学出版会, 2022年)

「国際的な放射線被ばく防護基準と日本政府の対応をめぐる課題」(高橋若菜『奪われたくらし—原発被害の検証と共感共苦』日本経済評論社, 2022年)

「人権問題としてのジェンダー格差—東電福島原発事故被害から考える」(『ジェンダー研究』第24号、3-16頁、2022年)

「国連システムと法の支配—主権国家体制を前提とした国際法秩序の課題」(日本国際連合学会編『主権国家体制と国連』国際書院, 2024年)

「学問の社会的責任とは何か—原発事故後の調査研究をめぐる考察」(清水奈名子・藤井広重編『探究の国際学—複合危機から学際的な研究を考える』ナカニシヤ出版, 2024年)

この分野を知るための基本的な文献紹介：

遠藤誠治・遠藤乾編 (2014) 『シリーズ日本の安全保障 1 安全保障とは何か』岩波書店

日本平和学会編 (2018) 『平和をめぐる 14 の論点』法律文化社

石田淳他編 (2024) 『国際平和論—脅威の認識と対応の模索』有斐閣

卒業論文題目例：「福島第一原発事故と犠牲のシステム —犠牲の见えない構造についての考察—」(14年度)
「武力行使の正当化における合法性の位置付け 2003年米国によるイラク戦争を事例として」(18年度)
「国連加盟国が認識する共通利益の変遷とその実現を巡る議論—『国際の平和と安全の維持』に注目して—」
(22年度)
「日本の自衛に関する安全保障政策について —2022年版国家安全保障戦略の3文書改定に着目して—」
(24年度)

＜履修モデル＞ ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目					
	基礎科目	多文化共生コア A (国際関係論)(清水) 多文化共生基礎E (国際法) 多文化共生基礎F (国際政治論)			
専門外国語科目		特に指定しない			
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会		近現代中国論 中東地域研究		
	欧米文化社会		Introduction to Latin American Studies		
	日本文化社会			Japan's International Relations(清水)	
	比較文化社会				
	言語・コミュニケーション		対人コミュニケーション論		
	国際協力		国際協力論 アフリカ論 地球環境政策論		
	国際共生	ジェンダー論	国際機構論(清水) International Protection of Human Rights		
	その他	国際キャリア教育	International Career Seminar	交換留学 外国語臨地演習	国際キャリア 実習
	卒業研究関連			国際共生研究C (国際関係論演習) (清水) 卒業研究準備演習 (清水)	卒業研究 I・II (清水)
基盤教育科目		戦争と平和をめぐる諸問 題(グローバル化の世界 B・清水)		3.11と学問の不確 かさ(基盤教養科 目・社会と人間への 扉・清水)	



国際共生研究 D（国際法演習）

Seminar in International Community Studies D (Seminar in International Law)

藤井 広重 FUJII Hiroshige

キーワード：国際人権/人道法、国際刑事裁判所、国連平和維持活動、平和構築、移行期正義、アフリカ政治

学問的特徴：紛争下において、国際法が果たすべき役割と課題を中心に、国際的な刑事裁判（ICC、ハイブリッド刑事法廷）および国連や地域機構による現場レベルにおける法の支配に係る取り組み（和解・事実調査委員会、治安部門改革、国連平和維持活動）を考察します。国際的な視座も重要ですが、課題に対し、草の根の視座からのアプローチも重視しています。国際秩序と国内秩序（特に現代アフリカ政治）の連関を紐解くことによって、国際社会による介入の実態を探究します。

専門分野：国際人権・人道法、平和構築論、現代アフリカ政治 アフリカと法をテーマとした研究に取り組んでいます。とりわけ、アフリカにおける紛争後の平和構築において、国際的な刑事裁判所の活動や期待されている“役割”が、現地社会や国連平和維持活動（PKO）などの他の国際的なアクターに対し、如何なる影響を与えているのかについて理論的分析や現地調査を踏まえた事例研究にも力を入れています。また、子どもを対象とした人権ワークショップにもゼミ生とともに取り組んでいます。

指導方針：本演習では、前半に平和構築に関する文献を講読し、後半に英語での模擬裁判を実施します。希望者は、模擬裁判の国際大会への出場を目指して、更に学びを深めることができます。並行して地域の子どもたちを対象に人権ワークショップを実施しています。人権の理論と実践の両輪を大事に指導しています。本研究室には、進学希望者が多く集まっています。ゼミ生は国連、ICRC、国際 NGO などインターン生として採用されてきました。国際機関、援助機関および国際 NGO での勤務や大学院への進学を考えている方および国家公務員等での試験科目で国際法を選択予定の方も積極的にご相談ください。受講者から希望があれば政府機関や国際機関への訪問、途上国でのフィールド・スタディも調整します。2019年9月にはオランダでゼミ合宿を行い、国際刑事裁判所や大使館を訪問しました。

主な執筆論文・文献：

「国際刑事法と難民法をめぐる課題に対する一考察：国際刑事裁判所による証人保護と難民条約除外条項の適用をめぐる分析を通して」(査読付)難民研究ジャーナル第11号，近刊。(第9回若手難民研究者奨励賞受賞)

「アフリカ連合による平和構築の課題および展望—2016年ガンビア大統領選挙後の移行期における取り組みを中心に」(査読付)広島平和研究第10号，近刊。

「国際刑事裁判所による司法介入とケニアの司法制度改革—ケニアでの不処罰終止に向けられた内と外の論理の変容」(査読付)国際政治第210号,近刊。

「ケニアにおける司法化する選挙と2022年大統領選挙の行方—司法化の進捗は選挙暴力を防ぐのか？」(査読付)『アフリカレポート(独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所)』第60号，2022年。

院生との共著「国際人権教育における子ども・若者参加の実践と課題：『人権』と『参加』をめぐる課題解決型学習(PBL)

の試み』『宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター年報』第13号、2022年。

「国際刑事裁判所をめぐるアフリカ連合の対外政策の変容——アフリカの一体性と司法化の進捗からの考察」(査読付)『平和研究』第57号、2021年。(第16回社会倫理研究奨励賞受賞)

この分野を知るための基本的な文献紹介：

遠藤貢編 (2016) 『武力紛争を越える：せめぎ合う制度と戦略のなかで』 京都大学学術出版会。

村瀬信也他編 (2014) 『国際刑事裁判所—最も重大な国際犯罪を裁く 第二版』 東信堂。

Schabas, William (2020) *An Introduction to the International Criminal Court 6th ed.*, Cambridge University Press.

卒業論文題目例：

過去の卒業論文タイトルは研究室ウェブサイトから御覧いただけます。 <https://www.fujiih.com/> →



<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年	1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目	多文化共生基礎E (国際法) (藤井)	多文化共生基礎 H (国際社会論)		
基礎科目	多文化共生基礎 F (国際政治論)			
専門外国語科目			Academic English Writing	
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会		中東地域研究	
	欧米文化社会		ヨーロッパ思想文化論	
	日本文化社会			Japan's International Relations
	比較文化社会	国際事象の実証分析		
	言語・コミュニケーション		Phonetics and Phonology	
	国際協力	International Humanitarian Law in Theory and Practice (集中講座) (藤井)	アフリカ論	
	国際共生		国際機構論 International Protection of Human Rights (藤井)	
その他	国際キャリア教育	International Career Seminar	外国語臨地演習	
卒業研究関連			国際共生研究 D (国際法) (藤井) 卒業研究準備演習	卒業研究 I・II (藤井)
基盤教育科目	武力紛争と人権 (藤井)			



国際共生研究 E （国際政治論演習）

International Community Studies E

（Seminar in International Politics）

松村 史紀 MATSUMURA Fuminori

キーワード：政治、国際政治、外交史、対外政策

学問的特徴：戦争や危機は多くのばあい、特定の人間や集団にのみその責任を帰すことは難しい。しかし、後世のひとは断罪すべき悪役を見つけては安心し、もっともらしい「歴史の教訓」を引き出そうとする。「世の中のいざごさは、悪意や悪だくみよりも、誤解や怠惰によることのほうがはるかに多いのだ」（ゲーテ「若きウェルテルの悩み」）とすれば、過去のひとびとは情報、時間、手段いずれをも制約されるなかで、どのような決断を迫られたのか。この問題を丁寧に考えたい。

専門分野：国際政治史 19世紀に萌芽した総力戦型、そして20世紀後半につくられる冷戦型の国際政治をそれぞれ比較しながら、現代東アジアの国際政治が歴史的にどのような構造をもって形成されてきたのかを考えてきた。具体的には、現代中国をめぐる国際政治の歴史を研究対象にしている。

指導方針：神は些事に宿る。「原子までおりてゆくことは、まことに冒険的な探検といっても誇張ではなく、物質を最後まで分解し微分していったときに、忽然と天文的宇宙が眼前にひらけるのであった！」（トーマス・マン『魔の山』）。過去の細かい人間の営みに分け入って、そこから人間と社会のありようを広くふかく理解してほしい。安易な可能性を求めるよりも厳しい制約を見抜く力をつけたい。「わたしたちが欲しているのは、自己の自由ではない。自己の宿命である」（福田恆存『人間・この劇的なもの』）。

主な執筆論文・文献：

松村史紀『「大国中国」の崩壊—マーシャル・ミッションからアジア冷戦へ』勁草書房、2011年

——「強制与自主之間：東方陣営圍繞日共武装闘争方針的内部関係（1949-1955年）」徐顕芬・李臻主編『大夏世界史研究』上海：東方出版中心、2022年11月、195-236頁

——「同盟と分業の間——中ソ関係から見た東アジア冷戦の構造——」歴史学研究会編集『歴史学研究』第1036号、2023年6月、14-20頁

この分野を知るための基本的な文献紹介：

高坂正堯（1966）『国際政治』中公新書 [善玉は期待を裏切る。平易な語り口、深遠な論理]

岡義武（[1955]2009）『国際政治史』岩波書店 [最新の研究が最良とは限らない。不朽の名作]

永井陽之助（2016）『歴史と戦略』中公文庫 [すぐれた設問の宝庫]

プラトン『パイドン』岩波文庫 [死こそ哲学の完成。生を尊ぶ現代を遠景に眺める最良の入門書]

卒業論文題目例：

「原爆投下と核戦略から見る現代中国の歴史認識」(2015年度)

「『ワシントン体制』の虚構：日本外交の国際協調主義再考(1910~20年代)」(2018年度)

「危機下の政策決定から見る現代中国外交」(2020年度)

「上海の文化大革命：労働者造反派の奪権過程とその政治力学」(2021年度)

「戦後労働運動をめぐるヘゲモニー争い：生産管理にかけた日本共産党の戦略」(2022年度)

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です。

科目/学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目 基礎科目		多文化共生基礎E (国際法) 多文化共生基礎F (国際政治論・松村)	多文化共生基礎G (国際経済論)		
専門外国語科目		特に指定しない(中国語の選択は推奨する)	中国語講読A、C (松村)	中国語講読B (松村)	
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会		近現代中国論(松村) 中東地域研究	アジアの歴史と思想	
	欧米文化社会		アメリカの経済と社会 アメリカ文化論		
	日本文化社会			Japan's International Relations	
	比較文化社会	国際事象の実証分析	表象文化論		
	言語・コミュニケーション		言語比較論		
	国際協力		途上国経済発展論		
	国際共生		国際機構論		
その他	国際キャリア教育	International Career Seminar	交換留学 外国語臨地演習	国際キャリア実習	
卒業研究関連			国際共生研究E(国際政治論演習)(松村) 卒業研究準備演習(松村)	卒業研究I・II(松村)	
基盤教育科目		グローバル化の世界C (国際政治史・松村)			



国際共生研究 F（国際経済論演習）

International Community Studies F

（Seminar in International Economy）

李 亜姣 LI Yajiao

キーワード：政治経済学、ジェンダー、フェミニスト経済学、国際経済、中国経済

学問的特徴：政治経済学とジェンダーを中心に、現代の国際経済を考察します。各学生の興味に応じて、政治経済学とジェンダー学の分野に限定せずに、アジア太平洋や欧米、日本等の地域研究に関わる科目も履修してください。

専門分野：政治経済学とジェンダー 研究課題は主に二つあります。一つは、中国の民間貸借と女性の被負債問題です。言い換えれば、夫の闇金の債務に巻き込まれた女性たちのことを研究しております。もう一つは、中国の土地財政と「農嫁女問題」についてです。つまり、女性の土地権剥奪問題です。

指導方針：3年次の演習において、基本となるような本を輪読し、「多文化共生基礎 G 国際経済論」や「ジェンダー論」で修得した知識やアプローチに関する理解を深めます。

主な執筆論文・文献：

1. 李亜姣『第7章 中国農村人民公社期の土地制度——「包産到戸」およびその論争の中での婦女聯を切口に——』、『中国と日本における農村ジェンダー研究—1950・60年代の農村社会の変化と女性—』晃洋書房, 2024. 3.
2. 李亜姣『現代中国高度成長とジェンダー—農嫁女問題の分析を中心に—』東方書店, 2022. 6.
3. 李亜姣『改革開放以降の農村女性土地問題に関する報道——「中国婦女報」(1984～2010年)を中心に』、『中国女性史研究』, Vol.29, pp.75-103, 2020.2.
4. 李亜姣『「農嫁女問題」とは——現代中国における進行中の本源的蓄積』、『経済社会とジェンダー』, Vol.3, pp.89-105, 2018.6.
5. 李亜姣『現代中国土地開発における農村女性の対抗運動——河北省南小征村を事例に——』, 東海ジェンダー研究所年報『ジェンダー研究』, Vol.19, pp.3-28, 2017.2.

この分野を知るための基本的な文献紹介：

長田華子・金井郁・古沢希代子編（2023）『フェミニスト経済学』有斐閣。

大沢真理（2020）『企業中心社会を超えて——現代日本をくジェンダー>で読む』岩波書店（岩波現代文庫）。

カトリーン・マルサル（高橋璃子訳）（2021）『アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か？——これからの経済と女性の話』河出書房新社。

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目／学年		1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
学部専門科目 基礎科目		多文化共生基礎 F (国際政治論)	多文化共生基礎 G (国際経済論)(李) 多文化共生基礎 H (国際社 会論)		
専門外国語科目		〈特に指定しません。関心に沿って履修してください〉			
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会		近現代中国論 中東地域研究	アジアの歴史と思 想	
	欧米文化社会		アメリカ文化論		
	日本文化社会			Japan' s International Relations	
	比較文化社会		社会調査法入門		
	言語・コミュニケーション	〈特に指定しません。関心に沿って履修してください〉			
	国際協力		途上国経済発展論		
	国際共生	ジェンダー論(李)	国際機構論		
その他	国際キャリア教育	International Career Seminar (李他)	交換留学 外国語臨地演習	国際キャリ ア実習	
卒業研究関連			国際共生研究 F (国際経済論演 習)(李) 卒業研究準備演 習(李)	卒業研究 I・II (李)	
基盤教育科目	データサイエンス国 際 B(李他)				



国際共生研究 G (Disaster Studies 演習)

Seminar in International Community Studies G

(Seminar in Disaster Studies)

飯塚 明子 IIZUKA Akiko

キーワード：災害・コミュニティ防災・復興・国際協力・NGO・ボランティア・多文化共生

学問的特徴：災害は国内だけではなく世界的に大きな課題です。コミュニティ防災は社会学、地域研究学、心理学、工学、政治学、国際協力学、教育学等の幅広い専門領域を網羅する学際的な学問ですので、興味や関心に応じて、分野や地域に限定せずに科目を履修してください。

専門分野：「災害と国際協力」に関して、これまでに大学の研究員、防災専門 NGO の職員、国連職員という様々な立場から、国内外のフィールド調査をもとに被災地の地域研究や国際協力事業に従事してきました。それらの調査研究や実践活動を通して、外部による支援が被災コミュニティの復興や防災力の向上、また自律的な発展にどのように関与できるのかという点を中心に研究しています。海外のフィールド研究に加えて、日本に住む外国人と防災に関する研究も行っています。

指導方針：1、2年次の科目履修を通して、災害と国際協力に関する基本的な概念や理論を理解し、興味のある地域や分野、そしてどうして興味を持ったかという問題意識を醸成してください。3年次の演習では論文の構成について、研究テーマの設定と絞り込み、また関連する文献読解や資料収集を行い、その問題意識を学術的な卒業研究に発展させていきます。短期・長期留学や国際インターンシップを経験したい方、将来 NGO、国際機関等での就職を希望する方、また海外の事例をテーマに研究したい方は、英語で研究（情報収集や文献読解、発表等）をすすめ、英語で卒論を執筆することを推奨します。

主な執筆論文・文献：

「留学生の防災意識と日本語能力の関係についての考察」『地域安全学会論文集』 41, 277-284, 2022.

『東日本大震災の教訓—復興におけるネットワークとガバナンスの意義』ミネルヴァ書房, 2021. (共訳)

“Disaster perception and preparation among foreign versus local university students in Japan: A comparative study”, *Progress in Disaster Science*, 15, 2022.

“Attracting Altruists: Explaining Volunteer Turnout during Natural Hazards in Japan”, *Disasters*, 2021.

“Local performing arts and recovery from the Great East Japan earthquake and tsunami: A descriptive qualitative study”, *International Journal of Disaster Risk Reduction*, 63, 2021.

“The Nature and Characteristics of Japanese NGOs in International Disaster Response”, *Disaster Prevention and Management: An International Journal*, 27(3), 306-320, 2018.

この分野を知るための基本的な文献紹介：

Aldrich P. Daniel (2019) *Black wave: How networks and governance shaped Japan's 3/11 disasters*, Chicago University Press.

Ben Wisner, et al. (2004) *At risk: Natural hazards, people's vulnerability and disasters*, Routledge.

Demon P. Coppola (2015) *Introduction to International Disaster Management*, Elsevier.

卒業論文題目例：「被災地の若者が考える『復興』とは何か—震災10年目の岩手県陸前高田市を事例に—」

「災害時における在日外国人支援の在り方を考える—3つの実践事例の検証を通じて—」

「東日本大震災における国際協力について—DAC評価基準6項目を用いて—」

<履修モデル> ※太字は教員の担当科目です

科目/学年		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生
学部専門科目	基礎科目	多文化共生基礎 A(Comparative Study of Culture) C(文化人類学) F(国際政治論) H(国際社会論)			
	専門外国語科目	特に指定しない	English for Current Events	Academic English Writing	
グローバル専門科目	アジア太平洋文化社会	〈特に指定しません。関心に沿って履修してください〉			
	欧米文化社会	〈特に指定しません。関心に沿って履修してください〉			
	日本文化社会			Japan's International Relations	
	比較文化社会		社会調査法入門		
	言語・コミュニケーション	〈特に指定しません。関心に沿って履修してください〉			
	国際協力		アフリカ論	環境と国際協力	
	国際共生		Disaster Studies		
その他	国際キャリア教育	Risk Management International Career Seminar	国際インターンシップ 交換留学		
卒業研究関連			国際共生研究 G (Disaster Studies 演習) 卒業研究準備演習	卒業研究 I・II	
基盤教育科目	グローバル入門 世界を知る、学ぶ、行動する				

5. レポート／論文作成の際の注意事項（研究倫理）

(1) 大学で「文章力」を鍛えるメリット なぜ「自分で書いた文章」が大切なのか

大学では、授業に関するコメント、提出課題のレポート、そして卒業論文にいたるまで、たくさんの文章を書くことが求められます。「文章力」を身につけることは、将来どんな職業を選んだとしても必ず必要になる重要な能力です。

大学で過ごす4年間の間に、自分で調べ、自分で考え、自分で文章を作り上げる作業をくり返すことで、この「文章力」を身につけることができます。

そのためには、レポートや論文が「自分で書いた文章」でなくてはなりません。他人の文章を写すだけで済ませてしまうと、そのときは楽をできますが、結局本当の「文章力」を養うことはできないからです。

「文章力」を養うのは、社会に出てからではもう遅いのです。せっかく4年という長い時間を大学で過ごすのですから、今のうちにしっかりと「文章力」を身につけ、自分の書く文章に自信がもてるようになってもらえればと思います。

(2) コピー・ペーストはなぜ禁止されているのか

みなさんは、コピー・ペーストの問題について聞いたことがありますか？ 他人が書いた文章をそのまま丸写しして、まるで自分が書いた文章であるかのように偽ることで、社会的にも大きな問題となっていますし、犯罪行為として扱われる例もあるほどです。

大学におけるコピー・ペーストとは、他の文献、資料、新聞雑誌、インターネット情報、他人の書いたレポートの丸写しなどのことです。このような行為は、試験のカンニングと同じ「不正行為」として禁止されており、単位の取り消しなどの処分の対象となります。

他人の書いた文章を自分のものと偽ることは、他人の権利を侵すという意味で倫理的かつ法的に問題であるだけでなく、せっかくの「文章力」を身につける機会を自分でつぶしてしまうことにもなります。大学で勉強する意味が失われてしまうのです。

(3) だれにどのような迷惑がかかるのか／どのような問題が起きるのか

コピー・ペーストをしても、誰にも迷惑がかからないのだから構わないじゃないか。そう考える人もいるかもしれません。しかし本当に何の問題も起きないのでしょうか。

大学内でコピー・ペーストなどの不正行為が多く見られるようになると、大学側もその防止のために様々な対策をとらなくてはなりません。みなさんが自分で書いた文章であることを証明する「宣誓書」を毎回のようにより要求し、すべてのレポートを徹底的に調べあげ、不正行為が見つかった場合には厳重に処分せざるをえなくなってしまうのです。

本来ならば、教員と学生間の信頼にもとづいて自由にいきいきと学問にいそしむ場であるはずの大学が、学生の行ないにいちいち目を光らせるという、なんとも不自由でぎすぎすした管理・監視の組織に変わってしまうことでしょう。安易に不正行為に手を染めることは、結果として大学という自由な学

びの場に深刻な影響をもたらしかねないのです。

社会に出てから、仕事のなかでコピー・ペーストを行った場合は、問題はさらに深刻になります。状況によっては犯罪行為とみなされ、自分の会社や組織全体に多大な迷惑と損害を与えることにもなるでしょう。他人の文章を丸写しすることが、いかに多くの人々に迷惑をかける危険性を持つかということ、今からしっかり自覚しておくことが必要なのです。

(4) 不正行為にならないための正しい引用方法

注意しましょう！たしかに丸写しをすることは問題ですが、他の文献や資料を「引用」してはいけないというわけではありません。むしろ学問的にレベルの高い文章を書くためには、多くの参考文献や資料を使うことが求められます。

そのため、文章を作成するときの「引用」については多くのルールや方法が決められています。これらのルールは、大学においてだけでなく社会に出てからも、また海外においてもきちんと通用するものです。丁寧にしっかり調べて書いた文章であることを証明するためにも、正しく的確な引用方法を身につけておきましょう。

<引用に関する基本的なルール>

- ① どの文章が執筆者自身の文章で、どの文章が引用したものであるかを明確に区別していること。
- ② 引用した情報や文章の出典を、正確にのせていること。

以下では、正しい引用方法の具体例を紹介しますので、今後の学習のなかでいつも参照するようにしましょう。

<引用在具体例>

例① 文献・資料の短い文章をそのまま引用する場合

「 」で引用文をくくり、出典情報を添える。

(文例①)

丸山によれば、自由とおなじように民主主義もまた「不断の民主化によって辛うじて民主主義でありうる」(丸山 1961、157 ページ) のだという。

例② 文献・資料の長い文章をそのまま引用する場合

段を下げて引用文を書き、出典情報を添える。

(文例②)

1946年12月、『文学季刊』第二号に寄せた文章において、坂口安吾は昭和天皇と敗戦の関係に関して次のように述べている。

たえがたきをたえ、忍びがたきを忍んで、朕の命令に服してくれという。すると国民は泣いて、外[ママ]ならぬ陛下の命令だから、忍びがたいけれども忍んで負けよう、と言う。嘘をつけ！ 嘘をつけ！ 嘘をつけ！ (坂口 1989、222 ページ)

例③ 文献・資料の文章を、執筆者自身の文章の中にまとめて引用する場合

引用していることが分かる文体で書き、出典情報を添える。

(文例③)

加藤によれば、散文は歩くようなものであり、詩は踊るようなものだというポール・ヴァレリーの説明は、詩と散文の最も鋭い区別の仕方であるという(加藤 2009、19 ページ)。

<文献・資料情報の記載例>

引用の出典として記した文献・資料は、レポートや論文の巻末に「参考文献・資料リスト」としてまとめて記載します。記載する必要があるのは、**編著者名（訳者名）、出版年、書名、出版社名**などです。並べる順番は、日本語文献の場合には著者名（苗字）のあいうえお順とするのが一般的です。また新聞や雑誌、ウェブサイトの情報も、以下のように必ず出典情報を記しましょう。

またより詳しい手引きとしては、**酒井浩二著『論理性を鍛えるレポートの書き方』ナカニシヤ出版（2009年）**などを参照してください。

例① 著者が1冊の本をすべて執筆している文献

著者名 出版年 書名 出版社名
丸山真男（1961）『日本の思想』岩波書店

例② 著者が1冊の本をすべて執筆している翻訳文献

著者名 訳者名 出版年 書名
オノレ・ド・バルザック（野崎敏・青木真紀子訳）（2000）『幻滅——メディア戦記（上）』
出版社名
藤原書店

例③ 本のなかの一つの文章を引用する場合

著者名 出版年 論文名 本の編著者名 書名 出版社名 掲載ページ
坂口安吾（1989）「続墮落論」（同）『日本論』河出書房新社 217－228ページ

例④ 雑誌のなかの論文を引用する場合

著者名 出版年 論文名 雑誌名 巻号数
加藤周一（2009）「私のヴァレリー」（『現代思想』7月臨時増刊号 第37巻第9号
掲載ページ
8－27ページ）

例⑤ 新聞記事を引用する場合

新聞紙名 年月日 掲載紙面
朝日新聞（2009年11月13日）朝刊第3面

例⑥ ウェブサイトの情報を引用する場合

ウェブサイトのタイトル URL アクセス年月日
宇都宮大学国際学部：<http://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/>（2020年12月12日参照）

（2020年12月12日作成）

6. 国際学部・国際学研究科倫理綱領・ガイドライン・問題事例

Code of Ethics / Specific Guidelines/ Problematic Cases of the Faculty of International Studies and the Graduate School of International Studies

1 倫理綱領

Code of Ethics

教員（非常勤を含む）、職員（非常勤を含む）、学生から成る本学部の関係者は、以下の原則に従って行動する。

Members of this faculty including the students, faculty members and staff (including the part-time lecturers and staff) shall follow the following principles.

- 1) 学部全般に係る活動において、常に基本的人権と個人の尊厳を尊重する。
We will always respect the basic rights and dignity of others in our work and activities.
- 2) 国際学部の教育目標の実現に資するために、学部全般に係る活動に関して、改善と向上に努める。
We will keep striving for excellence in our work and activities in order to achieve the educational objectives of the faculty.
- 3) 個人情報の保護に最大限の注意を払う。
We will make our utmost efforts to protect personal information.

2 倫理綱領に基づく個別ガイドライン

Specific Guidelines based on the Code of Ethics

以上の倫理綱領に基づき、特に以下の点について配慮をして行動する。

We will be always aware of the following guidelines based on the Code of Ethics.

- 1) 人種やジェンダー、言語、宗教、国籍、社会的背景、年齢等が異なる多様な関係者によって構成されている学部であることに留意しつつ行動する。
We will act with the awareness of diversity of the members in terms of race, gender, language, religion, nationality, social background or age.
- 2) 食事や信仰生活を含む生活様式を尊重する。
We will respect the lifestyles of the members including food and religious life.
- 3) ハラスメントに該当する行為は決して行わない。
We will not engage in any acts of harassment.
- 4) ハラスメントに関する情報を得たり相談を受けた場合には、放置せずに対応する。
When we receive any report or request of consultation in relation to the harassment, we will not ignore these reports but will respond.
- 5) 学生による主体的な学びを尊重し、その提案や意見を積極的に取り入れる。
We will respect the active learning of the students and will actively realize their ideas and opinions.

3 具体的な過去の問題事例

Problematic Cases in the Past

事例 1) 国籍による差別発言

Case 1) Discriminatory remarks against a certain nationality

ある関係者から「A 国人は泥棒だ」といった国籍による差別的な発言があり、その国籍を有する他の関係者の尊厳が傷つけられる事態が発生した。

One of the members made discriminatory remarks such as “people from country A are burglars.” Consequently, the dignity of another member from country A was compromised.

事例 2) ジェンダーや多様性への配慮を欠いた発言

Case 2) Remarks showing a lack of consideration for gender and diversity

ある関係者が、男性的な服装をしている女性に対して、「いい歳なのだから、もう少し女性らしくしないと」とジェンダーに関する配慮に欠ける発言があった。その結果、トランスジェンダー¹であるその女性の尊厳が傷つけられる事態が発生した。

One of the members said to another female member who always wore masculine clothing, “Now that you are old enough you should appear more feminine.” Because of this remark lacking consideration for gender and diversity, the dignity of the transgender person was severely compromised.

事例 3) ハラスメントに該当する行為や発言

Case 3) Acts and Remarks of Harassment

ある男性が懇親会で他者に酒を飲むようにしつこく勧め、男女問わず「付き合っている人はいるのか」等と質問をして無理に答えを聞こうとしたり、女性に対して酔っ払いながら「肩をもんでくれ」と頼んだりした。

One of the male members repeatedly asked other members to have drinks at the party and persistently questioned whether he/ she had a partner. After drinking liquor, he asked one of the female members to massage his shoulders.

事例 4) 許可を得ないで行う個人情報や写真の使用

Case 4) Use of personal information and photographs without permission

ある関係者が、他の関係者の連絡先などの個人情報や撮影した写真を、相手の許可なく SNS などを使って公開し、別の目的で利用した。

One of the members used personal information and photographs of other members on SNS media for unrelated purposes and without permission.

¹ トランスジェンダーとは、出生時に決定された性別に性的違和（性同一性障害）があり、性別を変えて生活していたり、性別を変えたいと思っている人（性と人権ネットワーク作成パネル、2014 年）。

Transgender is the state of one's gender identity or gender expression not matching one's assigned sex. Some transgender individuals are living or wishing to live with his/ her transformed sex identity.

注記：本文書にある「学部」とは、国際学部及び国際学研究科を指すものとする。

Note: In this document, “faculty” means the Faculty of International Studies and the Graduate School of International Studies.

7. 進路を視野に入れた履修

1 就職

大半の学生は、大学を卒業した後に、民間企業に就職する、あるいは公務員になるなどして働きます。日本の労働市場では、一般的には大学卒業予定者を対象に企業が採用活動を行う期間が設けられており、卒業予定者はこの期間中に企業の説明会に参加したり、面接を受けたりして、就職先を見つけます。この学生の活動は「就職活動」と呼ばれます。就職活動は3年生の後期あるいは4年生の前期に行われますが、それ以前に「インターンシップ」に参加することで、自分の関心のある業界を知り、就職活動に生かすことも重要です。

公務員には、主に中央省庁に勤務する国家公務員、地方行政組織（県庁や市役所）に勤務する地方公務員、あるいはこれら組織から独立した独立行政法人での勤務などがあります。国際公務員とは、国連やその関連機関の職員を指します。さらには、NGOやNPO職員という非営利団体で勤務する選択肢もあります。

(1) インターンシップ

インターンシップは大学の在学中に実際の企業活動に参加することです。インターン先の選定方法やインターンの申込方法等については、キャリア教育・就職支援センターが毎年皆さんに配付している『キャリア・デザイン・ノート』に詳しく書かれていますので、そちらを参照してください。また、国際学部の専門科目である「国際キャリア教育」「International Career Seminar」や基盤教育科目のキャリア創造科目など、インターンシップに関連する科目が準備されていますので、積極的に履修してください。

また、就職活動を行う際に多くの学生が「マイナビ」などの就職活動用のインターネットサイトに登録しますが、これらのWEBサイトにはインターンシップに関する情報も多く記載されていますから、就職活動を開始する3年生よりもはやく、1年生や2年生のころから登録しておき、インターンシップに活用するとよいでしょう。

(2) 民間企業

近年では、民間企業への就職活動の開始時期は様々に変更されており、なんとなく先輩の話を聞いても全く役に立たないということがあります。まずは上記の『キャリア・デザイン・ノート』を参照するか、あるいはキャリア教育・就職支援センターのサイトをチェックして、情報収集に努めてください。

就職・キャリア支援センター www.career.utsunomiya-u.ac.jp

なお、国際学部で国際的な事柄を勉強しても、民間企業ですぐに海外事業部に配属されるとは限りません。新規採用であれば、一般的には最初の2年から3年は国内勤務を通じて様々な業務を覚え、その後海外支店や海外事業に従事する機会がめぐってきます。日本の民間企業に就職して海外で働きたい人は、国内勤務が続いても「海外で働きたい」というアピールを常に上司や周囲の同僚に伝えておきましょう。

(3) 公務員

公務員には国家公務員、地方公務員、国際公務員の種類があります。国家公務員と地方公務員は、いずれも国内で採用試験を受け、合格する必要があります。試験の時期や勉強方法を事前にチェックし、学習計画を立てておきましょう。公務員試験についても、『キャリア・デザイン・ノート』が参考になりますから、よく読んでおきましょう。

国際協力機構（JICA）、日本貿易振興機構（JETRO）、国際交流基金といった独立行政法人の大半は国家公務員で構成されます。また、公的な機能をもっている一般的な役所や省庁とは異なる国際協力銀行（JBIC）や成田国際空港株式会社などの特殊会社もあります。これらの組織の職員採用活動は個別に行われていますから、事前にそれぞれの組織の WEB サイトを調べ、採用情報を入手しておきましょう。

(4) 国際公務員

一般的に国際公務員になるためには、修士号の学位に加え、実務経験が求められます。国連やその関連組織であれば、国連公用語（英語、ロシア語、フランス語、スペイン語、中国語、アラビア語）の少なくとも1言語で仕事ができることが求められ、2言語以上を求められる場合や、修得していると有利になる場合があります。ほとんどのポストが英語でのコミュニケーションを必要としますので、まずは英語の修得に励み、国際学部の科目には多くの言語が準備されていますから、早いうちから国際公用語を身につけておくと、国際機関での就職に役立てることができます。

実務経験は国際的な分野の業務経験である必要はなく、例えばプロジェクトマネージャーの求人では、民間企業でのプロジェクト運営経験も該当するなど、国内外問わずこれまでの経験が応募したポストで、どのように生かすことができるかが大事になります。つまり、国際公務員になるためには、実務経験と修士号の学位を得て初めて応募資格に適合することになりますので、長期的な計画が必要となります。例えば、学部を卒業した後に民間企業に就職して実務経験を得ながら大学院で学び、修士号を獲得して国際公務員に応募する、などです。修士号の取得にあたっては、「進学」の項目でも詳しく説明しますが、指導教員とよく相談して計画をしっかりと立てるように努めてください。

なお、日本政府は日本人の若手職員を国際機関に送り込むために、JPO (Junior Professional Officer) 制度を設け、日本人が国際機関で働く機会を提供しています。修士号や実務経験が求められる点は同様です。また、ネットワークを広げることも国際公務員としてのキャリアを構築するために必要不可欠です。国際関係でのインターンは通常、修士課程に進学している者を対象としていますが、いくつかの駐日事務所では学部生のインターンも受け入れているところもありますので該当機関の WEB サイトを定期的に確認してください。インターンの機会を活用したり、シンポジウムなどの公開イベントに参加するなどして、同じ志を持った仲間たちを見つけましょう。

JPO 派遣制度 <https://www.mofa-irc.go.jp/jpo/>

国連事務局が実施している一斉採用の試験もあります。国連事務局は、YPP (Young Professional Program) 若手職員採用のために毎年1回試験を実施しています。試験の合格者には、国連事務局の仕事が空席に応じて提供されます。近年は国連事務局に限らず、機関ごとに YPP を導入していますので、希望する機関の WEB サイトを確認してどのような「入り口」があるのか情報収集に努めることも大切です。

国連事務局 YPP <https://www.mofa-irc.go.jp/apply/ypp.html>

上記の JPO や国連事務局 YPP を除く国連やその関連機関は、日本の企業のように特定の時期に多くの

新規採用職員を募集したり、あるいは日本の公務員の様に特定の時期に採用試験を実施したりしません。基本的には、前任者の退職に伴って空席が発生した時に、この空席を埋めるための募集が行われたり、あるいは特定のミッション（平和維持活動、選挙監視団、貧困削減計画など）がスタートすると、それに必要な人材が募集されます。日本の外務省が各機関の空席情報を取りまとめて公表していますから、関心のある方は日頃からチェックしてください。

外務省 国際機関人事センター <https://www.mofa-irc.go.jp>

また、国際公務員は、プロジェクトベースで仕事を行う事が多いため、契約期間が定められており、延長される場合もありますが、契約が満了となり新たなポストを探さなければならないこともあります。このため国際機関で働くひとは、数年ごとに勤務地を変えたり、仕事を変えたりすることもあります。これは終身雇用と呼ばれている制度とは異なる勤務形態ですが、国際的に見れば契約期間に成果を上げ、その実績をもって、より上級のポストを目指して転職活動をすることはよくあることです。自身の専門性を高めながら国際的なキャリアを形成するスタイルが、国際機関で働く職員の一般的な働き方になります。

2 進学

(1) 国内での進学

日本の大学院は、多くの場合秋と冬に募集を行います。大学院によって試験内容は異なりますし、場合によって試験はなく、提出書類の審査と面接のみの場合もあります。提出書類として、研究計画書や志望動機に加え、成績証明書や卒業見込み証明書などが求められる場合が多いので、事前に揃えておく必要があります。

大学院は学部以上に指導教員の研究内容と院生の研究内容が近くなる傾向にありますから、事前に希望する大学院を訪問し、教員の話聞いておくといでしょう。その際、自分の希望する研究内容を明確にしておき、教員に適切に説明できるようにしておく必要があります。

宇都宮大学大学院地域創生科学研究科では、年数回募集を行っています。進学を希望する場合には、早めに指導教員に相談しておきましょう。

(2) 海外の大学院への進学

海外の大学院では、一般的には日本で行われているような入学試験は課されず、入学の可否は申請書類で判断されます。多くの場合、願書、成績証明書、卒業証明書、志望動機書、言語能力を証明するもの（英語圏であれば IELTS や TOEFL iBT などのスコア）、推薦状、エッセイなどの提出が求められます。多くの大学院では、書類は提出された順に審査され、合格者が決定されます。このため、たとえ優れた書類を作成しても提出が遅ければ、すでに合格者が決定しているために空きがなく、不合格になります。募集が始まったらすぐに書類を提出できるように準備しておく必要があります。なお、近年ではこれらの書類はオンラインで提出する場合があります。詳しくは、希望する大学院の WEB サイトを参照してください。

志望動機書やエッセイは、進学したい大学院の教育内容と一致することが必要ですから、希望する大学院の教育内容を詳しく調査し、その大学院の教員の研究内容（論文や書籍）も詳しく調査しておきましょう。また、海外の大学院に進学する場合でも日本の大学院に進学する場合と同様に、まずは指導教員と連絡を取り、大学院での自分の研究について相談しておく必要があります。さらに、大学院での研

究活動には、高い言語能力が求められます。このため、早くから言語学習に努めておきましょう。また、書類提出に間に合うように言語試験の日程を調べておきましょう。

合格通知を受け取った後は、留学に必要なビザを手配したり、入学必要書類を作成する必要があります。これらの書類は国や大学院によって異なるので、受験準備と合わせて、事前に調べておきましょう。

なお、海外の大学院に進学した場合、ビザの関係から渡航先で就労することは不可能だと考えてください。また大学院での授業は非常に厳しく、アルバイトする時間を取ることはほとんどできないでしょう。このため、大学院で学びながらアルバイトをして学費を稼ぐという選択肢は最初から排除したほうが無難です。博士後期課程に進み、必要な授業の履修を終えて博士論文の執筆のみが残されているような場合には、所属大学の学部生向けの授業を行うことで大学院の授業料の一部が免除されるような場合もありますが、こうした制度は大学によって異なりますから最初からあてにはできません。留学先でも奨学金の募集が行われることもあります。それらを期待するよりも、事前に必要な費用を準備しておくべきです。奨学金には多くの種類がありますが、留学先の国で分類すると、一例として以下のようなサイトを参照してください。

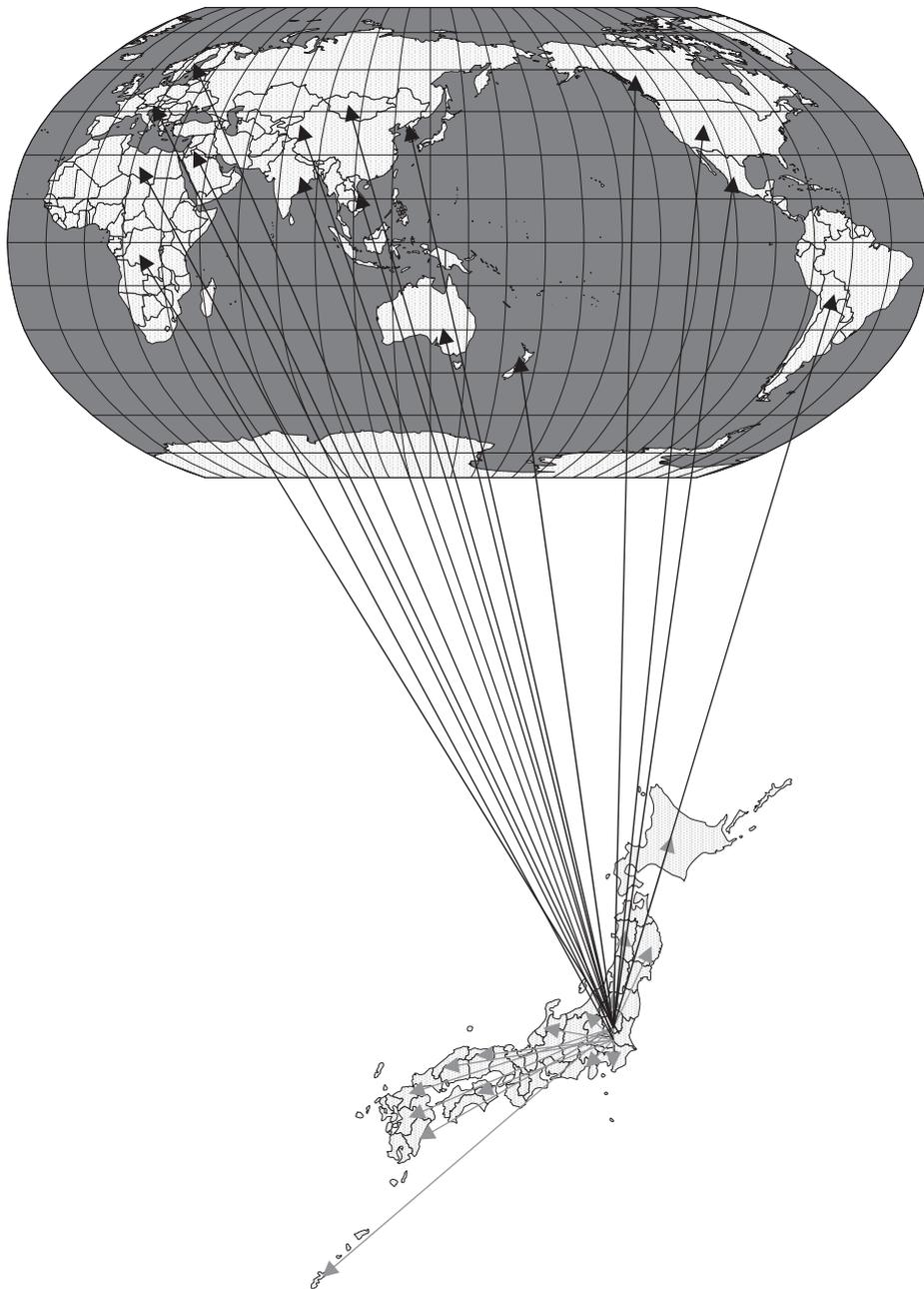
・アメリカ：フルブライト交流事業 (www.fulbright.jp/scholarship/index.html)

・EU：エラスムス・プラス（駐日欧州連合代表部内）

(https://eeas.europa.eu/delegations/japan/18702_ja)

・その他：海外留学支援サイト（日本学生支援機構）

(<https://ryugaku.jasso.go.jp/>)



作成：国際学部教務委員会

2025年 4月